

Fac simile. 模寫(同じものを作れの意).  
 Fac totum. 萬事の周旋人(萬事をなせの意).  
 Fax populi. 人民の滓, 下層社會, 賤民.  
 Fama clamosa. 喧傳されたる[悪い]評判.  
 Fas est ab hoste doceri. 敵からでも教へらるゝことは可い.  
 Fasti et nefasti dies. 吉日と凶日.  
 Fato obstant. 運命が妨げる(運數之を許さすの意).  
 Feræ naturæ. 獰猛な性質.  
 Festina lente. (註解参照) 徐々と急げ.  
 Fidei coticula crux. 十字架は信仰の試金石.  
 Fidei defensor. 信仰[宗教]の擁護者, 護法論者.  
 Fide, non armis. 武力に依らず, 信仰に依つて.  
 Fides Punica. 不信, 反逆, 譎詐.  
 Filius nullius. 私生兒(誰のものでもなき子の意).  
 Filius terræ. 微賤の人, 門地なき人.  
 Finem respice. 終局に注目せよ, 終りを願みよ.  
 Flagrante bello. 戦争の最中, 戦鬪.  
 Flagrante delicto. 犯罪の現行中.  
 Fortiter et recte. 義勇を以て(勇ましく且正しくの意).  
 Fortiter in re. 事に臨んで勇ましく.  
 Fortuna favet fortibus. 幸運は勇者に與す.  
 Fortuna multis dat nimium, nulli satis. 過當の幸運を得る者が多いけれど, 足るを知る者が一人もなし.

Fortuna sequatur. い(幸運は多くの人々に餘分を與へるが, 誰にも充分な[與へない]の意).  
 Frangas, non flectes. 幸運來を庶幾す.  
 Fuit illium. 吾身は粉碎すべきも, 吾志は奪ふことが出来ない(碎け, 曲げないの意).  
 Fuius. 私共は曾てあつた(さうであつたの意).  
 Fuit illium. トロアは曾てあつた.  
 Functus officio. 職務を盡して, 退職して.  
 Furor poeticus. 詩人の熱狂.  
 Furor scribendi. 執筆狂(著作等に熱狂的に従事すること).

G

Gloria in excelsis. 天の最上に光榮あれ(天の最上には神に光榮あれ, 地上には善意の人々に平安あれと云ふ, 祈禱文の首の語句).  
 Gratis. 無料で, 無賃で, ロハで, 無報酬で.  
 Gravis ira regum semper. 王の怒は常に嚴である(逆鱗大に恐ろしいの意).  
 Gutta cavat non vi, sed semper cadendo. 點滴の石を穿つは其力の爲ではなく, 其の間斷なく注下する爲である.

## H

Habet et musca splenem.	蠅〔の如き小蟲〕でも怒ることがある。
Hac lege.	此法で、此の約束にて。
Hæc olim meminisse juvabit.	他日此事を想起すればよろこばしからう。
Hannibal ante portas. (註解参照).	敵城門に薄る (ハンニバルが城門にあるの意)。
Haud passibus æquis.	不同の歩み方で。
Helluo librorum.	蠹魚 (書を貪食する人の意); 迂儒。
Hinc illæ lacrymæ.	是故に此涙 (これが涙の原因の意)。
Hoc loco.	此處に。
Homo solus aut deus aut demon.	たゞ人間のみが神ともなり或は魔ともなる。
Honos alit artes. (註解参照)	榮譽は藝術を養ふ。
Honos habet onus.	榮譽は責務を伴ふ。
Hora fugit.	歲月匆匆 (時が逃げるの意)。
Horæ canonicæ.	拜神の時刻。
Horresco refrens. (註解参照)	語るだもおそろしい。
Hortus siccus. (註解参照)	植物標本。

## I

Id est.	即ち、換言すれば。
Ignorantia legis neminem ex-	法を知らざることには誰をも免除

cusat.	しない (法律を知らないことが免罪の言譯にならぬ)。
Ignorantia elenchi.	要點を知らぬこと。
Ignosce sæpe alteri, nunquam tibi.	他人には屢々恕しても、汝 (自分) には断じて (恕するな)。
Ignotum per ignotius.	不案内の事を尙一層不案内の事を以て (説明するのは馬鹿らしい)。
Imo pectore.	胸底より、肺肝より。
Imperium in imperio. (註解参照)	國政内の國政、國家内の國家。
Imp. imatur.	印刷許可、准 (印刷せよの意)。
In actu.	現實に。
In æternum. (註解参照)	永遠に、永久に。
In ambiguo.	疑團のうちに。
In articulo mortis.	臨終に (しにぎはにの意)。
In cauda venenum. (註解参照)	尾に毒。
In cælo quies.	平安は天國に。
Index expurgatorius.	禁制書目、異端書の目録。
In esse.	實在に於て、本有的に。
In extenso. (註解参照)	外延的に、省略せずに、そつくり。
In extremis. (註解参照)	死期に際し、最期に、臨終に。
In foro conscientie. (註解参照)	良心の法廷に於て。
Infra dignitatem.	品位以下、地位以下。
In hoc signo spes mea.	此の徽章に吾が希望。

In hoc signo vinces. (註解參照)	此の徽章を以て汝は勝利を得べし。
In hoc statu.	此の状態に於て。
In limine.	入口に、戸口に、冒頭に、最初に。
In loco parentis.	親の代りに。
In medio tu'issimus ilis. (外參)	中央を行くは一番安全。
In memoriam.	紀念の爲に。
In nubibus.	雲の中に。
In nuce.	殻の中に、狭い籠圖内に。
Inopem copia fecit.	豊富は窮乏を致す。
In partibus infidelium (註解參照)	未信者の國に於て。
In posse.	可能的に、出來得べきことに於て。
In propria persona.	己れ自身に於て。
In puris naturalibus.	赤裸々の自然状態に於て。
In re.	事實に於て、事實に關して。
Insculptis.	彫刻した。
In situ. (註解參照)(外參)	本來の位置に於て。
Inter arma silent leges.	干戈のうちには法律は黙す (交戰中法律は施行されぬの意)
Inter alia.	中に就て、就中。
In terrorem.	威嚇として。
In transitu.	序に、因に(通る途中にの意)。
Invita Minerva (註解參照)	相當の才能なしに。
Ita lex est scripta.	立法斯の如し (法は斯の如く書かれてあるの意)。

### J

Januis clausis.	戸が閉されてあるのに、戸を閉めて、内密に。
Jucundi acti labores.	竣工はうれしい (行はれた労働は愉快の意)。
Jurare in verba magistri. (註解參照)	師の言によつて誓ふ、師の説にのみ従ふ。
Jure divino.	神法によつて。
Jure humano.	人法によつて。
Juris utriusque doctor (註解參照)	兩法律[民法神法]博士。
Jus civile.	民法。
Jus divinum.	神法。
Jus possessionis.	所有權。
Justitiae soror fides.	信は義の姉妹、信義相待つ。
Juxta.	沿ふて、從て、接して。

### K

Kalendae Graeciae.	無期。
--------------------	-----

### L

Laborare est orare.	働くは祈ると同じ、實行は祈禱なり。
Labore et honore.	勤勞と名譽を以て。
Labor ipse voluptas.	勤勞それ自らは快樂である。

Laborem omnia vincit. (註解参照)	勤勞は萬事に打克つ。
Lapsus calami.	書き謬り、筆のあやまり、誤筆、書き損じ。
Lapsus linguae.	舌の誤り、失言、言ひ損ひ。
Lares et penates.	家神、一家。
Latet anguis in herba. (註解参照)	蛇が草の中に隠れて居る。
Latitat.	潜伏してゐる。
Laudari a viro laudato.	稱讃される人に稱讃される。
Laudator temporis acti. (註解参照)	往時の稱讃者、守舊家、墓古家。
Laus Deo.	神に稱讃〔あれかし〕。
Legatus a latere.	羅馬教皇特派使節。
Lex talionis.	賠償法。
Libertas et natale solum.	自由と郷土〔郷里〕。
Liberum arbitrium.	自由意志、任意。
Lis sub iudice.	審議中の訴訟。
Lite pendente.	審議中、糾問中。
Litera scripta manent.	書いた文字〔文句〕は永く留存する。
Loco citato.	引用の箇所、引用の語句の中に、引用文中。
Locum tenens.	代理人、代人。
Locus classicus.	古文、先哲の文章。
Locus poenitentiae.	懺悔所、告白場。
Locus sigilli.	捺印の場所、調印の場所。
Locus standi.	立場。
Lucidus ordo. (註解参照)	明白な措置、秩序井然。

Lupus in fabula.	外面女菩薩、内心鬼夜叉(物語中の狼の意)、野心を藏する悪類の人。
Lusus naturae.	怪物、怪異(造化の戯弄の意)。

## M

Macte animo! (註解参照)	勇を鼓せ、しつかり!
Magister dixit. (註解参照)	師は然かく言はれた。
Magna est consuetudinis.	習慣〔の力〕は偉大である。
Magna est veritas, et praevalent.	眞理は偉大で、優勢とならう〔眞理は最後の勝利者となる〕。
Magni nominis umbra. (註解参照)	雷名の影(高名の影の意)。
Magnum bonum.	大慶至極、大幸。
Magnum est vectigal parcimoniae.	節儉は大収入である。
Magnum opus.	大業、鴻業。
Magnus Apollo.	アポロ大明神。
Mala fide.	不誠意を以て、不誠實にて。
Mali principii malus finis.	悪始根〔悪原因〕の悪結果。
Malis avibus.	凶兆によつて、不吉の前兆によつて。
Malo mori quam foedari.	汚されるよりは〔辱を受けるよりは〕寧ろ死んだ方がましだと思ふ。
Manet altâ mente repositum.	吾心に深く存してゐる。
Manibus pedibusque.	手足を以て、全力を盡して。

Manu propria.	自分の手で。
Materia medica.	薬材, 薬剤學。
Materiam superabat opus. (註 解参照)	勞作は題材に優れり。
Mea culpa. (註解参照)	我が過, 我が罪過。
Medium tenere beati.	幸福な者は中庸を執つた [もの である]。
Me iudice.	私の意見によれば (私の判断で はの意)。
Memento mori.	人は死ぬべきものであることを 記憶せよ。
Memorabilia.	記憶すべき事柄。
Memoriter.	記憶してゐて, 暗記して, 忠實に。
Mens conscia recti.	正しきを知る精神, 精神は正し きを知つてゐる。
Meo periculo.	私が危険を負ふて, 損害を私の 身に受けて。
Meum et tuum.	私のものと汝のもの, 私の所有 物と汝の所有物。
Mihi cura futuri.	私は未來を慮る。
Minutiæ.	鎖細な事, 末節。
Mirabile dictu. (註解参照)	語るに珍らしいこと。
Mirabile visu. (註解参照)	観るのに珍らしいもの, 観て感 驚すべきもの。
Miseris succurrere disco.	私は貧民を救ふことを學んで ゐる。
Mittimus.	罪人を牢獄に送る命令 (我等は 遣はすの意)。

Modo et forma.	方法に於ても形式に於ても。
Modus operandi (Modus fa- ciendi も同義)。	行ふ方法, 實行法, 運用手段, や り方。
Mole ruit sua.	自滅 (自分の重味で亡びるの 意)。
Mollia tempora fandi.	演説の好機會。
Monstrum horrendum. (註解 参照)	嫌惡すべき怪物, 恐怖すべき怪 物。
More majorum.	祖先の遺風に依つて。
More suo.	自己の習慣によつて, 自分の仕 方で。
Mors omnibus communis.	死は萬人に共通。
Motu proprio. (註解参照)	自己の發意で, 自分の任意によ つて。
Multa gemens.	いろいろに呻いて, 深く呻吟し て, 痛く嘆いて。
Multa paucis. (註解参照)	僅少で多く, 簡にして含蓄多し。
Multum in parvo.	小さいものうちに多く。
Munus Apolline dignum.	大賚 (アポロにふさはしい贈 物の意)。
Mutatis mutandis. (註解参照)	必要な改變を加へた上 (變更す べきものを變更しての意)。
Mutato nomine, de te fabula narratur.	名前を改めさへすれば, 話は直 にあなたに適合する。
Mutum est pictura poema.	繪畫は無聲の詩である。
Mutuus consensus.	相互の合意, 互諾, 双方の許諾。

N

Natale solum. 郷里, 生地, 故土.  
 Naturam expellas furca, tamen usque recurret. 暴力で天性〔自然〕を排斥しても, 天性は復た終に来る, (暴力では天理に背いて永久の成功は收められぬことを意味した語).  
 Nec cupias nec metuas. 利に惑はず, 難に懼れず.  
 Nec Deus intersit, nisi dignus vindice nodus. 神の佑助に適してゐる事件(神でなければ解決のつかぬ大難事)でなければ, 神の佑助を求むる筈でない.  
 Ne cedas malis. 艱難に屈するな.  
 Necessitas non habet legem. 急迫の場合には法がない.  
 Nec mora, nec requies. 遲疑なく, 停滯なく.  
 Nec placida contentus quiete est. 閑居に満足しない(安らかな休息に満足しないの意), 無聊に苦む.  
 Nec pluribus impar. 數人に匹敵し得る, 誰にも優る.  
 Nec prece, nec pretio. 哀願にも依らず, 金錢〔賄賂〕にも依らず.  
 Nec quærere nec spernere honorem. 名譽を求めもせず, 輕じもしない.  
 Nec scire fas est omnia. 何人でも漢でも知ることはよいと云はれない.  
 Nec temere nec timide. 無暗でもなく, 臆病でもなく(無謀に失せず, 怯懦に陥らずの意).  
 Ne exeat. 彼が出ないやうに(彼を出させ

ないやうにせよの意).  
 Ne Jupiter quidem omnibus placet. ユピテル太神でも萬人の意に適ふことが出来ない.  
 Nemine contradicente. 誰も異存なく, 異議なく.  
 Nemo me impune lacessit. 私を攻撃する者は誰でも罰なしには濟まぬ.  
 Nemo mortalium omnibus horis sapit. どんな人でもいつもいつも賢明であることは出来ない〔賢者にも千慮の一失がある〕.  
 Nemo repente fuit turpissimus. 誰も一朝にして最悪になつたものではない.  
 Ne puero gladium. 子供に刀を持たせるな.  
 Ne vile fano. 神廟にはいやしいことをなすな.  
 Nihil ad rem. 何にも役に立たない, 毫も問題にふれない, 少しも問題に關係しない.  
 Nimium ne crede colori. 餘り色〔皮相, 外見〕に信じてはならぬ.  
 Nisi Dominus frustra. 神祐によらなければ徒爾(主でなければ無駄の意).  
 Nolens volens. 否應なしに(彼が望まなくも望んでもの意).  
 Noli me tangere. (註解参照) 私に觸れるな.  
 Nolo episcopari. 私は司教(僧正)となることを好まない.  
 Non compos mentis. 精神錯亂.

Non constat. 判然しない(成立しないの意).  
 Non est vivere, sed valere, vita. 生命は徒らに生存することではなく、健全に生存することである。  
 Non fumum ex fulgore, sed ex fumo dare lucem. 光から煙を出す筈でなく、煙から光を出す筈である。  
 Non generant aquilæ columbas. 鷲は鳩を生まない(猛者は怯者を生まぬ).  
 Non libet. (私は)好まない。  
 Non multa, sed multum. 多くの事よりも、大事な事な。  
 (註解参照)  
 Non obstante. ……に拘らず。  
 Non sequitur. さう云ふ結論は出てこない。  
 Non sibi, sed patriæ. 私の爲ではなく、國家の爲である。  
 Non sum qualis eram. 今日の私は昔日の私ではない(私はありし昔のやうな私ではないの意).  
 Nonumque prematur in annum. それが九ヶ年保存されるやうに。  
 Nosce te ipsum. (註解参照) 汝自らを知れ。  
 Noscitur ex sociis. 友達で知れる、(其友を見て其人を知る).  
 Nota bene. (N.B.) 注意(よく注意せよの意).  
 Novus homo. 新人(新参者の意)、成り上り者。  
 Nudum pactum. 利益なき契約。  
 Nugæ canoræ. 無用の聲徒らに耳をよるこげすくだらぬ話、調子よきたはこと。  
 Nulli secundus. 二位と下らない(誰にも二番とならぬの意).

Nullum numen abest si sit prudentia. 深慮あれば神祐ある(深慮あれば、神のゐないことはないの意).  
 Nunc aut nunquam. 今でなければ其の時期がない(今ならざれば決しての意).  
 Nunquam aliud natura, aliud sapientia docet. 天性と上智の説く所は異ならぬ、性智其説を異にしない。  
 Nonquam non paratus. 準備してゐないことはない。  
 Nusquam tuta fides. 安全な信任は何處にも(置けない).

○

Obiit. 彼は逝去した。  
 Obiter dictum. 因に言つたこと、附言。  
 Obsequium amicos, veritas odium parit. 追従は友を、直言は敵を生む(作る).  
 Observanda. 注意すべき事項。  
 Obsta principiis. 最初に防げ。  
 Obstupui, steteruntque comæ. 私は戦慄して、頭髮か逆立つた、ぞつとして身の毛がよだつ。  
 Odi profanum vulgus, et arceo. (註解参照)(外参) 私は神を侮る俗人を憎み且排する。  
 Odi profanum. 私は汚辱(又は褻瀆)を憎む。  
 Odium in longum jacens. 宿怨、(永久の憎怨の意).  
 Odium theologicum. 神學上の憎怨(神學者の敵視).  
 Omen faustum. 吉兆。  
 Omne ignotum pro magnifico. 凡て未知の事は立派な事と(愚

(註解参照)	はれる。
Omne solum forti patria.	何れの土地も勇者の郷土。
Omne trinum perfectum.	凡て三数を有するものは完全。
Omne tulit punctum qui miscuit utile dulci. (註解参照)	實益と趣味を合せたものは全勝 を得たもの。
Omnia bona bonis.	善人には何事も善。
Omnia cum Deo.	何事も神と共に(何事も神の佑 によつて行はれる)。
Omnia mutantur, nos et muta- mur in aliis.	萬物皆變遷する、吾々も亦他のも のと共に變遷する。
Omnia vincit amor. (註解参照)	愛は萬事に打克つ。
Omnia vincit labor.	勤勞は萬事に打克つ。
Operae pretium est.	従事するに足ることである。
Orator fit, poeta nascitur.	辯士は學んで辯士となり、詩人は 詩人として生れる。
Ore rotundo.	美しい口附で、玉を轉ばすやう な聲で。
Origo mali.	禍因、禍害の根源。
O si sic omnia.	あゝ何事も斯の通りであるなら ば。
Os rotundum.	圓活の辯能辯。
O tempora, O mores!	あゝ時世よ、あゝ風俗よ。
Otia dant vitia. (註解参照)	閑居は不善をなす(怠惰は惡徳 を生ずの意)。
Otium cum dignitate.	名譽なる閑日月、功成つて勇退。
Otium sine dignitate.	失權、失位の境遇。

P

Pace tua.	御承諾の上、御許を得て。
Pacta conventa.	契約の條款。
Palmam qui meruit ferat.	勝利の榮冠は適任者に得せしめ る筈である。(適してゐる者が 勝利の榮冠を持つ筈の意)。
Palma non sine pulvere.	勞苦なく勝利なし。
Pari passu.	均一の歩みで。
Par nobile fratrum.	尊き一對の兄弟、伯仲の間。
Pars minima sui.	餘命、餘喘(己の極小の部分の 意)。
Paritur pax bello.	平和は戦争によつて生れる。
Particeps criminis.	共犯者、共謀者。
Parvum parva decet.	小事は小人に適す。
Passim.	あちこちに、隨所に。
Pater-familias.	家長、一家の主。
Pater patriae.	國老、元老(國父の意)。
Patria cara, carior libertas.	國家は愛すべし、自由は尙愛すべ し。
Patriis virtutibus.	祖先の力に依て、祖先の威靈に依 て。
Pauca sed bona. (註解参照)	少いけれども良い。
Pax in bello.	戦争の中の平和、平和は戦争の 中に存す。
Pede pœna claudo.	罰は緩歩して(來る)(罰は跛行 してやつて來るの意)。
Per ardua libertas.	自由は艱險を経て(得らる)。
Per diem.	日毎に、日々に。
Per gradus.	漸次に。



Per interim.	其間に。
Per mare, per terras.	海陸共に。
Per saltum.	一躍して、一足飛びに。
Per se.	自ら、他に依らず。
Perseverando.	忍耐しつゝ。
Philosophia stemma non inspicit.	哲學は血統を檢せぬ、哲學は門地を顧みぬ。
Pinxit.	彼之を畫けり。
Plebs.	庶民。
Pleno jure.	全權を以て。
Pluries.	數次に。
Poeta nascitur, non fit. (註解 nascuntur poetæ の條参照)	詩人は天稟より出で、人功(苦學)に依らぬ(詩人は生れるもので成るものでないの意)。
Populus vult decipi, et decipitur.	愚民は自ら好んで欺かれる。
Posse videor.	私は出来ると思ふ、私に能ふと思はれる(可能と見えるの意)。
Possunt quia posse videntur.	可能と見えるから、彼等は之を能くする、彼等は可能と見る故に、可能となる。
Post bellum auxilium.	戦後の援兵、無駄な救援。
Post cineres gloria sera venit.	名聲死後に來る(灰になつて後名譽が遅く來るの意)是非格を覆ふて定まる。
Post mortem.	死後、百歳の後。
Post tot naufragia portum.	幾多の難船を経て港に(達す)。
Prima facie.	一見して。

Erior tempore, prior jure.	時に於て先んずる者は、權に於ても先んずる、先んずれば人を制す。
Pro aris et focis.	宗教の爲又國家の爲に。
Probatum est.	證論されたことである、既に證明せられたことである。
Probitas verus honos.	正直は眞の榮譽。
Pro bono publico.	公益の爲に。
Probum non poenitet.	正直な者は後悔しない。
Pro Deo et ecclesia.	神と教會の爲に。
Pro et contra.	賛否、向背。
Pro hac vice.	このたびは、如今。
Pro memoria.	参考の爲に、覺までに。
Pro nunc.	今は、目下では。
Pro rata.	割合を以て、比例に。
Pro rege, lege et grege.	王と法と民の爲に、國王、國法及國民の爲に。
Pro re nata.	臨機應變に(起つた事に應じての意)。
Pro salute animæ.	救靈の爲に、靈魂の救拯の爲に。
Pro tanto.	それだけ。
Pro tempore.	臨時に(時に應じての意)。
Prudens futuri.	將來に注意深い。
Pugnis et calcibus.	力のあらん限り(拳と踵にての意)。

Q

Quæ fuerunt vitia, mores sunt.	昔日の弊害は今日の習俗(弊害であつたものが習俗となる)。
--------------------------------	------------------------------

Quaerens quem devoret. (註解 参照)	吞噬すべきものを求めて、誰を 吞噬せんかと求めつゝ。
Qualis ab incepto.	初と同じに(初發と同様にの意)
Qualis rex, talis grex.	斯君にして斯民あり。
Qualis vita, finis ita.	斯生にして斯死あり(生きた通 りその通り死ぬの意)。
Quamdiu bene se gesserit.	操行の正しかつた間は、失態な き間は。
Quanti est sapere!	世故に長けることは如何に大切 ぞ、事理を知悉することは如 何に大切ぞ。
Quantum libet.	好むだけ、欲する丈。
Quantum sufficit. (註解 quan- tum satis の條参照)	足りる丈。
Quid faciendum?	どうする筈であるか、如何に爲 すべきか。
Quid nunc!	何ぞ珍しい事は! 新奇を好む 者。
Quid pro quo.	同價物、代物。
Quid rides?	何を笑ふか、何ぞ笑ふのか。
Quid times?	何を恐れるか。
Quid violentius aure tyranni?	何が暴君の耳よりも憤激し易い ものがあるか。
Qui nimium probat, nihil pro- bat.	餘り證明し過ぎる者は、何をも 證明しない。
Qui non proficit, deficit.	進歩しない者は退歩する。
Quis custodiet ipsos custodes?	警護する者を誰が警護するか。
Qui tacet, consentit.	黙する者は諾してゐる(黙者は 即ち諾者)。
Quoad hoc.	これだけは、此事だけは。

Quo animo?	どういふ精神で、何の目的で、ど ういふ心持で。
Quocumque modo.	どうしても、如何様にしても(ど んな方法にしてもの意)。
Quocumque nomine.	どんな名義でも、如何なる名稱 (又は名目)にても。
Quod bene notandum.	深く注意すべき事、それは注意 すべき事である。
Quod erat demonstrandum. (註 解参照)	證明を要したる事、それが證明 すべき事であつた。
Quod erat faciendum.	爲すべかりし事、それが爲すべき 事であつた。
Quid hoc sibi vult?	それは[これは]何の意味である か。
Quid petis hic est.	お求めのものはあります、汝の求 むる所のもの爰にある。
Quod vide.	それを見よ、但之を見るを要す。

## R

Rari nantes in gurgite vasto. (註解参照)	廣々した淵に點々として浮んで ゐる。
Recte et suaviter.	正しく且甘く。
Redeunt saturnia regna.	黄金時代(サトルヌスの御世) が來復する。
Reductio ad absurdum.	反證論法。
Regium donum.	王室の恩賜金。
Re infecti.	事を仕途げずに; 未完又は未解 決の儘。
Rem acu tetigisti.	的中した。命中した。(汝は針で物

	に觸れたの意).
Res angusta domi.	家計困難.
Res gestæ.	偉業, 勳功.
Res iudicata. (註解参照)	判決済の事件.
Resurgam.	私は再起しやう.
Ridentem dicere verum, quid vetat.	談笑の中に眞理を語るに何の妨があるか.
Risum teneatis, amici? (註解参照)	友よ, 笑を忍ばれるか(笑はずにゐられるかの意味).
Rus in urbe.	都會に於ける田舎.
Rusticus expectat dum defluat amnis.	田舎者は河水の流れる間待つてゐる, (田舎者の暢氣なことを云ふ).

## S

Sil Atticum.	頓才, 奇才(アツチカの鋭敏の意).
Salvo jure.	權利を毀損せずに.
Salvo pudore.	貞節を破らずに.
Sapere aude.	賢明な者となるを憚るな.
Sat cito, si sat bene.	充分善ければ充分早い(事の善く行はれたるは, 早く行はれたるにひとしと云ふ意).
Satis eloquentiæ, sapientiæ parum.	言論巧みで, 明智少し.
Satis verborum.	言論は最う澤山.
Scribimus indocti doctique.	吾等は學識の有無に拘らず書く(學者でも無學者でも妄りに物を書くの意).

Secundum artem.	規則に従つて, 法に照らして.
Semel et simul.	一度で一緒に.
Semel pro semper.	前後只一度のみ, 後にも前にも一度きり.
Semper avarus eget.	貪婪者はいつも困窮(慾張者は飽くを知らぬの意).
Semper idem.	いつも同じ, 永久不變.
Semper paratus.	いつも準備して.
Senex, bis puer.	老人は二度の子供.
Sero, sed serio.	晩くても眞面目に.
Sic itur ad astra. (註解 Mac-te animo の條参照)(外・参.)	斯くして天に入る, (不朽に入るなどの場合の應用語句).
Sic passim.	何處も斯の通り.
Sic transit gloria mundi. (外・参.) (註解参照)	現世の榮譽此の如く經過す.
Sic vos non vobis. (外・参.) (註解参照)	汝も斯の如く汝の爲に勞作しない(汝の勞作の結果は汝の爲にはならぬの意).
Similis simili gaudet.	同氣相喜ぶ(同じ者は同じ者によろこぶ, 似た者相喜ぶ).
Si monumentum requiris circumspice.	碑を求めるならば, 四邊を見廻せ.
Simplex munditiis.	簡雅の裝飾.
Siste, viator.	止まれ, 旅人よ(碑文).
Sit tibi terra levis! (註解参照)	汝安らかに瞑目せよ(汝に地が輕からんことをの意).
Si vis me flere. (外・参.)	若し私の泣くのを好むなら.
Sola nobilitas virtus.	徳のみが貴い.
Sola virtus invicta.	たゞ徳のみ打ちかたれぬ.

Solitudinem faciunt, pacem appellant. (外.参.) (ubi solitudinem の條参照) 彼等は荒廢を作つて平和と稱してゐる。

Spargere voces in vulgum ambiguis. 民間に訛傳を流布する。

Spero meliora. 私は運命開拓を希望する(私はよくなる見込の意)。

Spes mea in Deo. 私の希望は神にある。

Spes tutissima caelis. 最も安全な希望は天國に。

Spolia opima. 最も打値のある分捕品。

Sponte sua. 己れ自ら。

Stans pede in uno. 無造作に(片足に立つての意)。

Stemmata quid faciunt. 門地は何になるか、爵位何かあらん。

Sua cuique voluptas. 人各其樂ある(各人に其樂の意)。

Suaviter in modo, fortiter in re. 舉止溫雅に、事に臨んで勇敢に。

Sublata causa tollitur effectus. (註解参照) 原因去つて了へば、結果は除かれる。

Sub rosa. 内々に、食會者間に。

Sub silentio. 無言に、沈黙の下に、黙々として。

Sui generis. (註解参照) 一種特別、特種性の。

Summum jus, summum injuria. (註解参照) 過刻の法律は無上の壓制。

Sum quod eris, fui quod es. 我の今の境遇は汝の他日のそれ、汝の今の境遇は我は既に経過した(汝のあるべき所は我今ある、汝のある所は我既にあつたの意)。

Sunt lacrymae rerum. (註解参照) 不幸な者の爲に泣く(誤解)。

Sunt superis sua jura. 神々には神々の法がある。

Suo Marte. 自力にて。

Suppressio veri, suggestio falsi. 眞の壓屈は、偽の暗示(眞理を抑へるのは、偽を勧めるの意)。

Suus cuique mos. 銘々に銘々の習癖、人各其の習慣あり。

## T

Tabula rasa. 白紙。

Tadium vitae. (註解参照) 厭世、人生の倦厭(生存することが厭になること)。

Tam Marte quam Minerva. 智勇兼備の力で。

Tempus edax rerum. 時は萬事を亡ぼす(歲月は事物の吞噬者の意)。

Tempus fugit et nunquam revertitur. 歲月一たび去つて復たかへらず。

Tempus omnia revelat. 歲月は萬事を露見せしむ。

Teres et rotundus. 完全無缺、(圓滑の意)。

Terra incognita. 未知の國(知れない地の意)。

Toga virilis. 丁年の式服。

Toties quoties. 何々程それ程。

Totis viribus. 全力を盡して。

Trahit sua quemque voluptas. (註解参照) 人各其の欲する所に従ふ、(各人を其樂が引付けるの意)。

Tria juncta in uno. 三者一に合体。

Troja fuit. トロイアは曾てあつた(が今は亡い)。

Tua res agitur. 汝に關係する話だ(汝の事が論  
ぜられてゐるの意).  
Tulit alter honores. (註解參  
照) 他人が名譽を取つた.  
Tu ne cede malis. 艱難に屈するな.

## U

Ubi jus incertum, ibi jus nul- 法のふたしかな所には、法がない。  
lum. い、法の明ならざるは法なき  
にひとし。  
Ubi lapsus! 私は何處に失墜したか、過失何  
處に!  
Ubi mel, ibi apes. 蜂蜜のある所には蜂がある。  
Ubique patriam reminisci. 何れにゐても故郷を忘れるな  
(何處にゐても故郷を追憶せ  
よの意).  
Ubi supra. 前記の個所(上陳の所の意).  
Ultima ratio regum. (註解參  
照) 兵力、戦争(王者の最後の手段の  
意).  
Ultra vires. 権力以外、權利外(力以外の意).  
Ut ameris, amabilis esto. 愛されるやうに、愛らしくあれ。  
Utrumque placuerit Deo. 神意に適ふ如く、神の聖旨に適  
ふ如く。  
Utile dulci. (註解 Omne tulit 實益を趣味に(合せしめよ).  
の條參照)  
Ut pignus amicitiae. 交誼上、友情の證據(シルシ)と  
して。  
Ut prosim. 私は世の利益になるやうに(何  
々を行ひたい).

Utrum horum mavis accipe. どちらでもお好きの方をお取り  
なさい。  
Ut supra. (註解參照) 前陳の通り、上記の如く。

## V

Vacuus cantat coram latrone 無一物の旅人は盜賊の面前で歌  
viator. ふ。  
Valet anchora virtus. 徳は錨の如く人を安心させる。  
Valet et plaudite. 告別せよ又喝采せよ。  
Variorum notae. (註解參照) 諸家の註釋。  
Varium et mutabile semper 女の心と秋の空(女は常にいろ  
femina. (註解參照) いろに變り易いものの意).  
Veluti in speculum. 鏡に掛けて見る如し(鏡に面す  
るが如しの意).  
Vel prece, vel pretio. 切願又は金錢を以て(祈求又は  
代價を以ての意).  
Venenum in auro datur. 毒を盛るに金杯を以てす(毒が  
金杯で與へられるの意).  
Velis et ramis. 百方術を盡して(帆と舵とを以  
ての意).  
Verba volant, scripta manent. 言葉は飛び去り、書いたものは  
(註解參照) 永く存す。  
Verbum sat sapienti. 智者には一言で足る。  
Ver non semper verit. 春はいつまでも榮えぬ。  
Vexata quaestio. 久しく議論になつた難問。  
Vice versa. (外.參) 反對にして見ても亦同じ、逆に  
論じても同様。  
Victis honos. (註解參照) 負けた者に名譽。

Vide et crede.	見よ又信ぜよ。
Vi et armis.	力と兵器とを以て、腕力によつて。
Vincit veritas.	眞理は勝利者(眞理は勝つての意)。
Vires acquirit eundo. (註解参照)	愈々進んで行くに従つて勢力を占める、疾走しつゝ勢を得る。
Virtus incendit vires.	徳は勢力を起す。
Viva voce.	口頭で(生きた聲での意)。
Vive, vale. (註解参照)	さよなら御機嫌好う。
Vivida vis animi.	精神の活動力。
Vivit post funera virtus.	徳は死後に生く(徳は葬儀の後にも永存するの意)。
Volo, non valeo.	望むけれど出来ぬ(欲せざるにあらず能はざるなりと云はんが如し)。
Vox et praeterea nihil.	聲の外何にもない、虚聲のみ。
Vox faucibus haesit. (註解参照)	言葉が出ない(聲が咽喉に附着するの意)。
Vox populi, vox Dei. (註解参照)	天は人をして言はしむ(民の聲は神の聲の意)。
Vulgo.	普通、通常。
Vultus index animi.	顔は心の表明(顔面は精神を表はすものの意)。

## [下] 上掲羅句語句の註解 (尙上掲以外の重要な羅句語句をも加ふ)

### A

- A Jove principium.** (ユピテルから始めやう) ヴィルヂリウスの語句。ユピテルは萬物の本源、牧人ダメタスが其歌をユピテルから始めやうと言つた古事に基く。主要人物又は重要事項から始めやうと云ふ場合に應用される語句。
- Ab ovo.** (英欄参照) (以下英、参、に略す) ホラチウスの語。ヘレナ(トロイア戦の原因となつた美姫)の母レダ(鶴化せる)の卵の古事に基く。ホメロスはトロイア戦を ab ovo から語らうとすれば、レダの卵まで遡源したであらうが、そこまでは遡らずに、攻圍の時(攻城事跡)から始めたのをホラチウスは賞讃したのである。
- Ab urbe condita.** (外欄参照) (以下外、参、に略す) 羅馬人は羅馬の建國より年代を數へた。それは基督生前七五三年に相當する。此の語句の略字は U. C. 例へば 532 U. C. とあれば、羅馬建國五三二年の意。
- Abyssus abyssum invocat.** (外、) ダヴィドの詩篇の語句。一度過

- 参.)
- Acta est fabula. (外. 参.) 古代劇に於て大團圓の場合を知らしめた時の語。偉人臨終などの場合に應用さる。
- Ad angusta per angusta (外. 参.) ヴィクトル、ユゴの戯曲 Hernani 四幕目に於る陰謀者の暗號。百艱を排さなければ成功の域に達しないと云ふ場合の應用語。
- Ad gloriam. (外. 参.) 名譽の爲に働く、即ち金にならない、ロハの働きと云ふやうな場合の反語。
- Ad hominem. (外. 参.) Argumenta ad hominem の場合にのみ用ゐらる。論敵の言論を其儘使用して論駁する場合の論法。
- Ad honores. (外. 参.) 無報酬の場合に用ゐる。例へば名譽職の如き。
- Adhuc sub iudice lis est. (外. 参.) ホラチウスが挽歌韻律の始源に關する論争を審議した時の語句。議論未決又は同意未調の場合の應用語。
- Ad limina Apostolorum. (外. 参.) 羅馬聖廳への紆説、省略して單に ad limina と云ふ。
- Ad litem. (外. 参.) 訴訟用語。例へば商事訴訟代理人への委任の如きは ad litem である。即ち該訴訟の一件のみに限られてゐる。
- Ad majorem Dei gloriam. 耶蘇會の標語。略字の A. M. D.

- (外. 参.)
- Ad patres. (外. 参.) G. なる首字は同會より出づる書籍の題辭として用ゐられてゐる場合が多い。
- Ad patres 行くと云ふ時は、死去の意にて、ad patres 送ると云ふ時は、殺すの意。此の語句はいつも親しい間柄の語として用ゐらる。
- Ad perpetuam rei memoriam. (外. 参.) 羅馬聖廳へ提出された難問の解決を載せた教皇勅書の冒頭に記される定式語。記念碑又は徽章などにも用ゐられる。
- Ad unguem. 何かの表面をなめらかにする爲に爪を施して仕上げたときの引喩語。ラスィーヌの詩は ad unguem であると云へば、完璧であるの意。Ad unguem 知ると云へば、全く根柢まで知悉するの意味にも用ゐる。
- Ad usum Delphini. (外. 参.) 佛王ルイ十四世の太子の爲に生硬な箇所を除いて提供した羅句の古典に就ての語句。或主張の爲に書中の記事を削除し又は訂正する場合の應用語となつてゐる。
- Aequo animo. (外. 参.) 艱難を靜平な心で忍ぶ場合の語。
- Aere perennius. ホラチウスが其の作品を不朽に傳へんとした時の語句。Exegi monumentum aere perennius (私

Es triplex.

Eternum vale.

Age, libertate decembri...utere ...  
(いざ十二月の自由を...享有せよ).

は青銅よりも永 する記念物  
を完成した)の語句の後半.

ホラチウスが初代航海者の豪膽  
を形容した語(三層倍の青銅、  
即ち非常につよい青銅の意).  
不撓不屈なる勇氣の應用語.

オヴィディウスの語句. オルフェ  
オスが其の愛妻ユリテチェを  
地獄の神々より取戻す爲に、  
地獄にくだり美しい聲の歌を  
以て神々を魅せしめたとき、  
神々は冥府の境を通過せざる  
前には決して背後を顧るなど  
云ふ條件の下に彼れの妻をか  
へすことを約したのに、オル  
フェオスは其の約に背いた爲  
め再び愛妻を失ひ、それ 最  
後の訣別となつた神話に基く.  
Supremum vale と同じく永久  
の訣別を意味する. 人々は浮  
世の財寶や人生の快樂には、  
supremum vale を告げられる  
などと云ふ應用語がある.

ホラチウスが其の奴隸ダウスに  
對する語. ユピテル太神の父  
サトゥルヌス祭には奴隸等は  
自由を享有した、同祭は十二  
月に執行された故此の語句が  
出て來たのである.

Agnosco veteris vestigia flammæ.  
(私は昔の戀の名残を憶ふ.)

A latere. (特派の)(傍のの意)  
(君側のと云ふが如き意味.)

Albo lapillo notare diem. (外.  
参.)

Alma mater (或はalma parens)

Amicus Plato, sed magis amicav  
eritas. (外. 参.)

Animus meminisse horret. (外.  
参.)

Ante mare, undæ.(海の前に水.)

(昔時の情火の跡を認むの意).

ウィルゲリウスの語句. シケウ  
スの未亡人アイトがエネアス  
を見て初めの夫に對して燃し  
たやうな情火を起したとき、  
其妹に向つて自白した言葉.  
やげほつくいに火がつくの應  
用語.

羅馬教皇が外交上の使命を帯び  
しめる爲に、自己の近側より  
樞機教官を選ぶ例に基く.

羅馬に於ては白色は幸福の表徴  
で、黒は不幸のそれであつた.

羅甸の詩人は祖國、郷國を示す  
爲に此の語句を屢々使用した  
が、近代の文士は大學校を指  
す爲にも用ゐる.

哲學者が論争の場合に屢々引用  
する諺で、其の意は意見や持  
論や主張などがプラトーンの  
如き權威によつて支持される  
ばかりでは足りない、尙其上  
眞理に適合しなければなら  
ないと云ふにある.

ウィルゲリウスの語句. エネア  
スがトロイア戰の慘狀を語り  
初めたときの言葉.

原因は結果に先立つ、全は分の  
集合より成る、軍隊を有する



Aquila non capit muscas. (外. 参.)

には兵士を要す等の例によつて、其の意味が分る。

大人は小事に關せず、豪い人は小問題に頓着しない。(獅子は蠅を捕へぬ)の語句もある。

Arcades ambo. (外. 参.)

ヴァルヂリウスの語句。アルカディア人で歌が上手であるチルチスとコロドと云ふ兩人に當嵌めた語であるが、今日では大抵いつも悪いなづらの仲間を指す語になつてゐる。

A remotis. (遠ざけて、別にして。)

或物を別にして置くなどの場合の語句。

Argumentum ad crumenam. (外. 参.)

財布に訴ふる論法と云ふ意。理窟が盡きて財布を開く。セヴィラの理髮師のうちに、アルマヴィヴァ伯はバシリオに argumentum ad crumenam を用ひてゐる。

Argumentum baculinum. (外. 参.)

論據の代りに棒でぶんなぐること(暴力論法)。モリエールの Mariage forcé 中にスガナレルの懷疑論者マルフリウスに對して此の論法を用ひてゐる。プラトーンも懷疑論者に對しては此の論法の一審効力あるを説いた。

Asinus asinum fricat. (驢馬が驢 兩人互に相ほめ合ふ場合の語句)

馬を撫でる。)

Audaces fortuna juvat. (幸運は大膽な者を援助する。)

ヴァルヂリウスの Audentes fortuna juvat... の模倣語句。(Audentes は敢て豪膽に事を行ふ者)。

Audi alteram partem. (英. 参.)

公平な裁判をするには、原告の言をきいてから、被告の言をもきかねばならぬ。

Aura popularis. (人民の吹嘘。)

ヴァルヂリウスにも、ホラチウスにも此の語句を見る。人望の頼み難きを云ふ(輿論の變り易き場合にも應用される)。

Aures habent, et non audient.

(耳をもつてゐても、きかぬであらう。)

ダヴィドの詩篇の語句。情慾の爲に正理の言をきかない者に應用する語句。

Auri sacra fames. (英. 参.)

ヴァルヂリウスの語句。Sacra は元來“聖”いの意味なれども、古代の法律に於て、神に犠牲として獻げられ、誰でも見付け次第殺してよいと人民に判決された者を sacer と稱したところより、呪ふべきと云ふ意味が出て來たのであると云ふ。

Austriæ est imperare orbi universo. (全世界を支配することは奥太利の事である。)

奥國皇室の野心満々たる標語。アルファベットの五つの母音 A. E. I. O. U. を以て省略されるのも妙。之を獨逸語に譯するときにも、同じ母音の字を以て始まる。 Alles Erdreich ist

Oesterreich unterthan.

Ave Caesar (vel Imperator), morituri te saluant. (皇帝陛下、死せんとする者陛下に敬禮す。)

往古羅馬に於て、公衆觀覽の下に、猛獸と角闘した闘士が、角闘する前に、皇居に向ひ、正列して發したる語句であると云ふ。

B

Beati pauperes spiritu. (外. 参.)

馬太傳五章三節の語句。基督の山上聖訓の首めの語。世の財寶に心を奪はれぬ者と云ふ意味なるが、意味を曲げて反語的に、無知無學にして成功する者を指す爲に應用されてゐる。

Beati possidentes. (外. 参.)

ピスマルクが之を流行せしめて以來屢々應用される語句であるが、眞の意味は、國又は己の權利を恢復しやうとするには、先づ實際それを所有しなければならぬの意。

Bella matribus detestata. (母達の忌み嫌ふ戦争)

ホラチウスの語句。軍人の銅像や、戦争の記念物や、戦利品などには世の母達は目をくれぬと云ふやうな場合に應用した者もある。例へばマルピエの ce bronze que jamais ne regardent les mères (母達の決して見ない此の銅像)。

Bis dat, qui cito dat. (早く與ふる者は二度與へる。)

早く世話してくれる者は、二度世話してくれるにひとしい。

Bis repetita placent. (外. 参.)

ホラチウスの警句。詩聖の曰ふには、或作品は一讀したとき丈け氣に入るけれども、或作品は百たび繰返しても、いつも氣に入る。(熟讀玩味するに従て興味益々深し)。

Bonum vinum lactificat cor hominis. (良き酒は人の心を悦ばしめる。)

聖書より出た語句(Ecclesiast. XL, 20) であるが、原文は Vinum et musica lactificant cor. (酒と音楽は心を悦ばしめる。)

C

Caeli enarrant gloriam Dei. (天は神の光榮を語る。)

詩篇(ダヴィドの)(XVIII, 2)の語句。天界は造物主なる神の全智全能を最も雄辯に語るを意味した語句。

Caelo tenantem credidimus Jovem Regnare. (吾等はユピテルの轟くを聞いて天に君臨するを信じた。)

古人は雷鳴はユピテルの怒りであると信じたので、宛も漢土に於ける迅雷必變の古事に類してゐる。ホラチウスの短詩の語句。

Cetera desiderantur. (他に遺憾の點がある。)

直譯すれば、爾餘缺如すの意にて、作品の不完全なるを示す語句。Cetera desunt とも云ふ。

Carcere duro. (嚴重な牢獄。)

奥國が權勢を振つてゐた時代に

使用された語句で、國事犯に對する監禁制度を示すものであつた、例へばシルヴィオ、ベルリコは *carcere duro* に處せられた。此刑の重くなるのを示すときには、*carcere durissimo* (極めて嚴重な牢獄) の語句があつた。

*Carpe diem.* (英. 參.)

ホラチウスの語句。人間は短命であるから、早く享樂する筈であることを示したものである。

*Carpent tua poma nepotes.*  
(子孫が汝の果實を收穫するだらう。)

ザイルヂリウスの語句。人は現在と自己の事ばかりを考へる筈ではない、將來と後昆のためをもはからなければならぬを示したものの。

*Casus belli.* (外. 參.)

兩國民間に敵對行爲を惹起し得べき行爲を指す語句。例へば大使に對して行はれた侮辱は *casus belli* となる。延て個人と個人の間にも應用されるけれど、多少反語的である。

*Caveant consules!*  
(執政官警戒するやう!)

羅馬の元老院が危急の場合に執政官に獨裁權を與へたときの語句にて、之についで *ne quid detrimenti respublica capiat* (國家が何等かの損害を受けぬやうに) の語句があつた。騷亂などの起る場合に於ける

應用語句。

*Cave ne cadas.* (落ちざるやう注意せよ。)

羅馬の凱旋者に一人の奴隸が其の背後から叫んで傲慢自負に陥らぬやう警戒した語句。今は高位より失墜せぬやう注意せよと云ふ場合の應用語句。

*Cedant arma togae.* (兵器は長衣に讓るべし。)

チチエロが執政の時代に自ら語りたる語句。軍政は民政に讓るべしと云ふ場合の應用語句。

*Claudite jam rivos, pueri; sat prata biberunt.* (外. 參.)

ヴィルヂリウスの語句。もう澤山だから、やみにしやうと云ふときの應用語句。

*Cogito ergo sum.* (英. 參.)

デカルトが思考する者の存在を斷定した語句で、古來凡ての哲學者の斷言及證論を疑に附したけれども、何事をも疑ひながらも、疑ふ者の存在を否定することが出來ない、疑は一種の考であるから、茲に「我考ふ故に我存在す」と云ふ哲學の基礎を築いたのである。

*Compelle intrare.* (強て入りしめよ。)

福音書の宴會と來賓の譬話に於ける語句。或人に對して其人の利益になると思ふことを強ふることが出來るとする場合の應用語句。

*Compos sui.* (自制者、自主。)

如何なる場合にも、賢者は *Compos sui* である。

*Consummatum est.* (事竟り

基督の十字架上に於ける最期の

ぬ.)

Contraria contrariis curantur.

(.對のものは反對のもの  
で癒される.)

Concedo. (Distinguoの條参照)

Coram populo. (公けに、公々  
然.)

Corpus delicti. (罪體.)

Credo quia absurdum.

(不條理なるか故に、我は  
それを信ず.)

Cuique suum. (外. 参.)

Date obolum Belisario.

(外. 参.)

語. 大慘事の際に於ける慟  
哭の應用語.

古代の療法の語句. 同種療法:  
similia similibus curantur [外.  
参.] と反對.

ホラチウスが戯作者は或る演劇  
を民衆の觀覽に供すべきでない  
と云つた時の語句. 公々  
然忌憚する所なしと云ふやう  
な場合の應用語句.

犯罪を組成する物質的原素の全  
體, 犯罪の存在を證明する物  
體.

聖アウグスチヌスの語句と云ふ  
は誤れり, 同聖は單に信仰の  
特色は理會するの必要なく信  
するに在ると云つただけであ  
る.

羅馬法の格言.

## D

ベリサリウスはビザンスの將軍  
で波斯軍を破り, 訛傳なが  
ら, 將軍は失寵して, 明を失  
し, 乞丐となつたと云ふ. 爾  
來此名は高貴の風采を持つて  
ながら可哀相な盲人となつて  
ゐる不幸な者を指す.

Dat veniam corvis, vexat

censura columbas. (外. 参.)

Divus sum, non Œdipus.

(外. 参.)

Debemur morti nos nostraque.

(吾等と吾等のものは死  
に運命づけられてゐる.)

Decipimur specie recti. (善

等は善の外容に欺かれる.)

De commodo et incommodo.

(利害に就て.)

De gustibus et coloribus non

disputandum. (味と色に就  
ては議論する筈でない.)

ユヴェナーリスの語句. 羅馬の  
婦人ラロニアがストイクス學  
派の人から攻撃された女性を  
擁護する爲に硬強なる口頭辯  
論をなしたときの壓尾語. 良  
民迫害されて, 悪人罰されず,  
或は時を得顔になつてゐる場  
合の應用語.

ダダスは無學なれど忠實な奴隸  
の典型, エディプスは伶俐な  
豪傑にして, スフィンクス(獅  
身人面の怪物)の謎を解いた  
者.

ホラチウスが落葉の樹木を見て  
人生の果敢なきを嘆じたとき  
の語句.

ホラチウスが詩人に就てのみ語  
つた語句であるが, 人皆此の  
通弊に陥るから, 誰にも應  
用される語句.

行政上に限られてゐる語句,  
例へば de commodo et incom-  
modo の調査と云へば, 利害に  
就ての調査と云ふ意.

中世のスコラスチカの諺である  
が, 佛語などには, 各人思ふ  
がまゝに言動することが出來  
る場合の應用語句となつてゐ  
る.

Delenda est Carthago.

(外. 参.)

De minimis non curat praetor.

(奉行は小事に關はぬ.)

Dente lupus, cornu taurus

pelit. (狼は齒で、牛は角で  
むかふ.)

Dente superbo. (馬鹿にした  
口つきで.)

Dentibus albis. (皮肉の調子  
で.)

Deo gratias. (外. 参.)

カト[羅馬の名士]が元老院に出  
て、論議する毎に必ず此の語  
句を發したと云ふ、Ceterum  
cenceo Carthaginem esse delen-  
dam (それにしてもカルタゴ  
を滅ぼさなければならぬと思ふ)、  
持論を主張して他迄もそれを  
實行しなければならぬと千遍  
萬回繰返しつつある場合の應  
用語句。

高位高官又は相當の位地の人  
は詰らぬ事、下らぬ事に頓着し  
ないと云ふ場合の應用語句。

ホラチウスの語句。人各々天  
賦の武器で戦ふ、各人已に能  
ふ方法で防禦する場合の應用  
語句。

ホラチウスの比喩的語句。  
都會の鼠が田舎の鼠の粗末な  
御馳走に招かれたときの輕蔑  
の口つきを示したもので、直  
譯すれば高慢な齒での意味。

直譯すれば、白い齒での意味で、  
嘲弄するやうなひやかすやう  
な調子での場合の應用語句。

公教會(天主教會)の祈禱(經文)  
の中に屢々繰返される語句。  
物事が目出度く終を告げて満  
足した場合の應用語句。

Deo ignoto. (外. 参.)

De omni re scibili, et quibus-  
dam aliis. (凡ての知り得  
べき事に就て、其他の事柄  
に就ても.)

De plano. (容易に、難なく.)

De profundis. (深いところよ  
り.)

Desinit in pisces. (外. 参.)

De stercore Ennii. (エンニ  
ウスの糞の中より.)

使徒パウルスが雅典に福音を宣  
傳したとき或寺院に刻書され  
しと云ふ語句。使徒は基督  
教徒の神は正しく其の神であ  
ることを希臘人に説ききかせ  
た。

前半の de omni re scibiliは、人  
の知り得べき事に就ては誰に  
も譲らないと自信してゐたピ  
ク、ドラ、ミランドルの標語で  
あつたが、後半の et quibusdam  
aliis は多分ヴォルテールが年  
少學者の自負を冷笑した語句  
ならん。何にも知らないくせ  
に、何んでも知つたふりする  
者を皮肉る語句。

法律上の語としては、直ちに、  
調査なく、手續なく、の意味  
に使用されてゐる。

公教會で死者に對する祈禱の際  
に唱へる詩篇の首めの語句。

ホラチウスが統一なき文藝作品  
は女身魚尾[人魚]に類してゐ  
るといつたときの語句。龍  
頭蛇尾と云ふが如き場合の應  
用語句。

エンニウスは古代の羅句詩人に  
て、其の詩句は生硬にして半  
ば不純正であつたけれども、

大いなる愛を以て我々に示されし  
神の御心。我々が神に對する  
愛の心を、神に對する愛の心を  
神に對する愛の心を、神に對する愛の心を

Deus, ecce deus! (外. 參.)

Deus nobis hæc otia fecit.

(神が吾等に此の閑日月を  
與へた.)

De viris. (偉人傳.)

Diem perdidisti. (私は空しく  
日を費した.)

Dies iræ. (怒の日.)

語氣は非常に勁強であつたから、  
ヴィルヂリウスは其の叢の中から  
眞珠を見出すに至つたと云ふ古事  
に基く。今日餘り名も知れぬ者  
の作者の中にも時々金玉の句が  
ある、と云ふ場合の應用語句。

クメスの巫女がアポロより詩的  
靈感を得たと思つてゐたの  
に對してヴィルヂリウスの叫  
んだ語句。詩心の動く場合  
の應用語句。

ヴィルヂリウスの詩の中に、牧  
人チチレが他の牧人に、アッ  
グストゥス皇帝より自分の家  
督を返還して貰つて優悠自適  
の境遇にあることを語つた語  
句。こゝに在るdeusはアッグ  
ストゥス皇帝を指すのである、  
神聖なる皇帝の過當溢美の稱。  
中學程度の羅句教科書 De viris  
illustribus urbis Romæ (羅馬の  
名士に就て) と題する首めの  
二字。

ティトゥスが終日何にも善事を行  
はずに空費したときの語句。  
公教會(天主教會)の彌撒聖祭書  
中、死者を祀る時に唱へ又は  
歌ふものとして載せられてゐ

Difficiles nugæ. (苦心の駄作.)

Di meliora piis. (外. 參.)

Dis aliter visum. (神々の見  
解は別であつた.)

Discite justitiam moniti, et non  
contemnere divos. (警告さ  
れて正義と神々を蔑如せ  
ざることを學べ.)

Di-jecti membra poetæ.  
(支離滅裂の詩人の肢體.)

Displicuit nasus tuus. (汝の  
鼻が氣に入らなかつた.)

る散文の首めの語句。怒の  
日は天譴の日の意味にて、公  
教會の所謂公審判、新教者の  
所謂末日審判の日を指す。

マルチアーリスが、下らぬこと  
に眞面目に従事して苦心して  
ゐる人を嘲弄した語句。

ヴィルヂリウスの語句。將來  
吾々の運命の尙幸福にならん  
ことを祈求する場合の應用語  
句。

トロイアの名士が其徳によつて  
自國滅亡の際に救はれたこと  
を語つたヴィルヂリウスの語  
句。神々は別に判断なされた  
と云ふ意味。

ホエチアの王フレザアスがデル  
フィの殿堂を掠略した爲に、  
アポロから冥府につき落さ  
れて、大聲に此の警告を叫ぶ  
べく處罰されたと云ふヴィル  
ヂリウスの語句。

ホラチウス語句。詩を散文に  
譯すれば、その完璧を期し難  
いけれども、尙その片鱗を認  
めることが出来ると云ふ場合  
の應用語句。

ユヴェナーリスが羅馬の貴婦  
人が其の奴隷女を理由なく氣

Distinguo. (我れ區別して論せん)

Divide ut regnes. (支配せんが爲に分割せよ)

Doctor in utroque (jure). (兩法博士)

Doctus cum libro. (外. 参.)

Dominus dedit, Dominus abstulit; sit nomen Domini benedictum. (主與へ給へり, 主奪ひ給へり, 主の名の祝されんことを)

儘勝手に虐待したことを語つたときの語句。人は氣まぐれの犠牲であると云ふ場合の應用語句。

スコラ哲學上の語句。Concedo (我れ賛成す, 承認す)と nego (我れ否定す)との對語。

マキアヴェルの政策語として知られてゐるが、實は羅馬の元老院の政策語であつた。佛國に於てもルイ十一世及カトリヌ、ド、メディスィス后なども此政策を採つた。Divide ut imperes (統治するが爲に分けよ)。Divide et impera (分けて統治せよ)等の語句と同じ意味の語句。

民法及教會法博士の意味。In utroque jure (兩法に於ける)を省略して單に in utroque と稱す。

獨創の見なく、玩讀者を指す語句。

古聖ヨブの難儀艱難に陥つても毫も天を怨まざりしときの語句。天命に安んじて諦めてゐる場合の應用語句。

Dominus vobiscum. (外. 参.)

Donec eris felix, multos numerabis amicos. (汝が幸福である間は、多くの友を數へるであらう。) (幸運の境遇に在る間は、友人の數屈指に違あらざれども、一朝天搖曇るときは、我々孤影を守らんの意)

Dulce et decorum est pro patria mori. (祖國の爲に殉死するは嬉しく且美しきことである)

Dulces moriens reminiscitur Argos. (死際にも懐しき故郷を憶ふ)

Dulcia linquimus arva. (吾等は懐しき郷土に別を告ぐ)

Dura lex, sed lex. (外. 参.)

公教司祭(天主教の司祭)が彌撒聖祭中參集の信徒に向て屢々誦へる語句。

オヴィデウスが、アウグストゥス皇帝より追放されて友人から見捨てられたときの語句。常に次の語をも附け加へる、Tempora si fuerint nubila, solus eris (天曇らば、唯だ孤獨とならん)。人幸運のときには門前參集の友山をなせども、一朝不運に陥らば一人の訪れるものもなきに至る場合の應用語句。

ホラチウスが羅馬の青年子弟に祖先の德行就中武勇を學ばんことを獎勵したときの語句。

年少武士アントールがエネアスの後を慕ふて伊太利に來り遠く祖國を離れて死したるときに心狀を叙したヴィルヂリウスの語句。〔Argosは地名〕。

牧人メリベウスが戦後故郷を追放されて、國土をさりたるを惜みたるを叙したヴィルヂリウスの語句。

嚴しい法律でも、之に服さなければならぬと云ふ場合に於け

る格言。

E

Ecce homo. (視よ、人を。)

基督が受難の當時手に笏代りに  
葦を執り、頭には荊棘の冠を  
戴いてゐたのをピラトが猶太  
人に指して語りたる語句。人  
が己れ自らを指し又は他の人  
を指す場合にも應用される。  
前記状態の基督の畫像の稱と  
しても用ゐられてゐる。

Ecce iterum Crispinus. (視よ  
復たクリスピヌスな。)

ユヴェナーリスの語句。またう  
るさいクリスピヌスが遣つて  
來たぞと云ふ意味で、いつも  
悪い方の意味に用ゐる語句。

Ego sun qui sum. (我は有る  
所の者である。)

即ち“我は萬有の有、至上有であ  
る”の意味、神學には意義深  
遠の語として詳しく解説す。

Eheu! fugaces labuntur  
anni. (あゝ！歳月の過ぎ  
去るは早いものである。)

神がモイセスに告げたる語句  
ホラチウスが烏兔匆々、光陰矢  
の如く、迅節夢の如く過ぐる  
を嘆じたときの語句。

Ejusdem farinae. (同臭一味  
の徒。)

同じ粉で出来たものの意、いつ  
も悪い方の意味に用ゐる、同  
じ悪癖を有つてゐる人々を指  
す語句。

Emunctae naris. (見分けのよ  
い人。)

〔洩をかんだ鼻の〕の意味にて、  
識別、鑑定のよい人を指した  
ホラチウスの語句。

Ense et aratro. (英. 参。)

戦時には劍を執り、平時には農  
業に従事して國家に奉仕する  
國民の標語。後年ビュザヨー  
將軍がアルジェリアの總督で  
あつたときの標語であつた。

Epicuri de grege porcum.

遊蕩のホラチウスが自ら稱した  
語句。〔實は己を斯く見下げ  
たと云ふよりも、ストイクス  
派の嚴酷な説をあてこすつた  
ものならん〕。然し兎に角耽溺  
の徒を指す場合の應用語句と  
なつてゐる。

(英. 参。)

Eripuit caelo fulmen sceptrum-  
que tyrannis. (天より電光を、  
暴君より王杖を奪つた。)

フランクリンの半身像の石に  
刻して、其の科學的發明と歴  
史的使命を表明した語句。

Eritis sicut dii. (汝等も神の  
如くならん。)

悪魔が蛇の形をかりて樂園に於  
ける人祖、殊にエワを誘ひ善  
惡の智慧の樹の果實を食はし  
めたとときの語句。まことし  
やかな約束をなして人を欺く  
やうな場合の應用語句。

Est modus in rebus. (英. 参。)

ホラチウスの語句、佛蘭西の格  
言“何事にも過度は缺點であ  
る”に對當す。

Et campos ubi Troja fuit.

トロイアは火焰に葬られ、避難  
者はエネアスの周圍にまつは  
り、エネアスと共に都城の廢  
墟をのこして立去つて了つた  
時の光景を叙したヴァルヂリ

(外. 参。)



ウスの語句。祖國を追出された民の憂苦を表明する場合の應用語句。

Etiam periere ruinae. (外. 參.) ルカヌスがテッサールのトロイア廢墟を弔つた時のことを叙したときの語句。類廢墟まれる状態を示す場合の應用語句。

Etiam si omnes, ego non. (外. 參.) 橄欖山に於 聖ペトロが基督に向つて“皆なんぢに就て廢くとも我は終に廢かじ……我は主と偕に死するとも爾を知らずと言はじ云々”と斷言した忠誠の語句。

Et in Arcadia ego, (外. 參.) 佛の畫家プッサンの名畫“アルカディアの牧人”の題辭。アルカディアは古代希臘の高原地、其の住民は牧人にて、淳朴幸福の生活を送つてゐたと云ふ。此の語句は夢の如く過ぎ去りたる幸福を惜みながら語るときに應用す。

Et nunc reges, intelligite; erudimini qui iudicatis terram. (して今や、王よ、理解せよ、地を裁く者自ら教誡せよ。) ダヴィドの詩篇の語句であるが、佛の文豪ボッシュイの追記演説に引用された爲に有名となつたものである。他人の經驗によつて自ら誡むべきを示す場合の應用語句。

Et propter vitam, vivendi perdere causas. (して生きる爲に、 ユヴェナリスの語句。同詩人が當時の腐敗せる貴族を譴責

生きる理由を棄てる。)

Et quasi cursores, vitae lampadae tradunt. (して走者の如く、人生の燈火を渡す。)

Ex cathedra (英. 參.)

した時の最後の言葉で、其の意は、名譽と云ふものは吾々に取つて生きる最大理由であるべきだと云ふに在る。

ルクレチウスの語句。同詩人は人生は風前の燈の如きを示さん爲に希臘の棒燈祭に比したのである、同祭には夜間走者立次いて相互に炬火を渡し合つた、同詩人は人生は宛も此の走者が炬火を他の走者に渡して闇に入るに似てゐると語つた。要するに人間の短命にして果敢なきを示す場合の應用語句。

羅馬教皇が、ex cathedra. (教皇坐より) 語ると云ふときは、全世界の教會の首領として語るの意味にて、此時は教皇の語る所不可誤であると云ふ、全世界の教主として全世界の教會の信仰に關する事を教へる場合には聖靈の特別の佑助によつて誤る憂はない、さもないれば一人の誤は何千億萬人の誤になる譯である。但教皇が個人として語るときには不可誤と云はれない。此の語句は延て“堂々學者の風を以

Exegi monumentum ære perennius. (私は青銅よりも永續する記念物を完成した.)

Exempli gratia. (英. 参.)

Exeunt, exit. (外. 参.)

Ex nihilo nihil. (外. 参.)

Ex ore parvulorum veritas. (外. 参.)

Exoriare aliquis nostris ex ossibus ultor. (外. 参.)

Expende Hannibalem. (ハンニ

バルを秤れ.)

註解は外語中常用の羅句語句。Ære perennius (青銅よりも永續する) の條參着。

省略するときは, e. g. の二字を以てす。Verbi gratiaも同義。劇の中に登場人物の退場を示す語句にて, 前者の exeunt は二人以上の退場, 後者の exit は一人の退場の場合に用ゐる。ルクレチウスとエビクルスの哲學を約した有名の格言なれども, 實はメルシウスの詩句より出でたる語句。意味は“無よりは何にも出て來なかつた, 何にも造られなかつた, 凡て有る所のものは, 無始より何等かの形で既に有つたものである云々”。

佛語にては屢々引用される語句。子供は嘘つくことを知らないの意味。

ヴァルヂリウスの詩の中にデイドが死ぬる際に呪つたと云ふ語句。詩人の考では此の復讐者は羅馬の強敵ハンニバルを指したのである。

ユヴェナーリスの語句, “名將ハ

バルを秤れ.)

ンニバルの死灰幾斤なるかを秤つて見よ”の意味。武將の名譽の虚なるを示した語であるが, 人生榮譽の恃むに足らぬを示す場合に應用される語句。

## F

Facit indignatio versum.

ユヴェナーリスの語句。意味は人憤激すれば詩想直に湧き出で, 雄辯口を衝いて出づると云ふこと。

Faenum habet in cornu. (角の上に秣草を持つてゐる.)

ホラチウスが諧諷的に諷刺作家を, 角の上に秣草又は藁をかぶせて往來の人に警戒せしむる危険な牛にたとへた語句。危険人物を避けよの意味。

Favete linguis. (外. 参.)

ホラチウスが自分の語らんとする訓言を謹聴せしめんが爲に, 祭祀を執行する者が参拜者に向て語つた文句をかりたときの語句。“黙れ”の婉曲法。“舌をお慎みなさい”。

Felix culpa! (幸福な罪過よ!)

聖者アウグスチヌスの説教から, 公教會に於て聖週中の土曜日に歌ふ聖歌に移した語句。人類の始祖アダムとエラの犯罪によつて, 救世主の降來を見

- Felix qui potuit rerum cognoscere causas. (萬物の原因を知り得たる者は幸福なるかな.)  
 ギルヂリウスの語句。萬有の理法を解して、愚俗の迷信を脱してゐる高想達識の士の幸福をほめる場合の應用語句。
- Festina lente (英. 參.)  
 スエトニウスの言に據れば、アウグストゥス帝の語句なりと云ふ。意味は“早く立派な事業に成功しやうと思へば、徐々と急いでやれ”と云ふに在りて、“急がばまはれ”と同じやうな語句。
- Fiat lux. (外. 參.)  
 創世記に神が“光あれ”と語るや、“光は直に顯出した”と記してあるところより出でたる語句。凡て宇宙玄妙の眞理を闡明する大發明の標語。
- Fiat voluntas tua. (英. 參.)  
 “主禱文”の中にある語句。諦める場合などにも應用される。
- Fidus Achates. (外. 參.)  
 エネアスの最も忠實な友アカテスに就て語れるギルヂリウスの語句。親友、莫逆の友を示す場合の應用語句。
- Finis coronat opus. (外. 參.)  
 何事も終りの善惡によつて決定すると云ふ場合の應用語句。(善い方にも悪い方にも使用される。)
- Fortis aquarum. (外. 參.)  
 ダヴィドの詩篇の語句。大抵い

- つも、“淡々として盡ない”と云ふことを多少諧謔的に示す場合の應用語句。
- Forsam et hæc olim meminisse juvabit. (外. 參.)  
 ギルヂリウスの語句。エネアスは此の語句を以て、難儀艱難の際、自分の隨行者を慰めたと云ふ。
- Fortunate senex! (幸多き老人よ!)  
 牧人メリベウスが同じ牧人チクルスが田地を失はずに持つてゐるのを見て語つたのを叙したギルヂリウスの語句。幸多き有徳の老人を指す場合の應用語句。

## G

- Gloria victis. (敗者に榮譽あらんことを.)  
 Va: victis (敗者は不幸なる哉)の對句。
- Græcum est, non legitur. (外. 參.)  
 中世の格言。(中世には希臘語は餘り流行らなかつた)。知れないこと、解らないことに關與するたと云ふ場合の應用語句。
- Grossomodo. (大體、あらまし、ざつと。)

## H

- Habeas corpus. (外. 參.)  
 往昔英國に於て國民の個人的自由を保護したる法律語にして、被拘禁者の拘禁の當不當を決定する爲に、被拘禁者を法廷

- Habemus confitentem reum. (外. 参.) チェサルが勝利を占めた時追放されたポンペイウスの與黨リガリウスを擁護したチチェロの演説の首めの語句。
- Habent sua fata libelli. (外. 参.) テレンチアヌス、マウルスの語句にて、同詩人自ら此語の實例を示した譯である、何ぞなれば此の語句の外餘り援用されない詩人であつた、而も此の語句は他の人の語句と思はれて應用されたのである。
- Hannibal ad portas. (英. 参.) (ante は寧ろ ad) ハンニバルがカンネの役に於て羅馬軍を破りたる後に羅馬人の叫びたる語句。敵が近く城門に攻寄せたる場合の應用語句。
- Hic et nunc. (外. 参.) 此處で今の義なれど、直ぐに、即時にと云ふ意味に於て應用される、例へば“hic et nunc 御拂下さい”の如し。
- Hic jacet. (外. 参.) 墓石又は墓標の上に刻書する語句。何某之墓と同じ意味。
- Hoc caverat mens provida Reguli. (レグルスの先見の明は之を警戒してゐた。) ホラチウスの語句。事後になつてから、いつもそれを先見してゐたと言ふ預言者が世に少くないと云ふやうな場合に反語的に應用する語句。
- Hoc erat in votis. (これは私の願望であつた。) ホラチウスの語句。願望實現

- Hoc opus, hic labor est. (外. 参.) クメスの巫女がエネアスに地獄から復歸して來る困難を示した語句。(ヴィルヂリウス)。そこがまさしく困難の點であると云ふ場合の應用語句。
- Hoc volo, sic jubeo, sit pro ratione voluntas. (外. 参.) 権柄づくの婦人の言葉として述べたユヴェナーリスの語句。凡て専斷の場合の應用語句。
- Hodie mihi, cras tibi. (外. 参.) 通常の話に於ては、“吾々の遭遇した辛い事に頓て人も遭遇するであらう”と云ふ意味なれば、“私に今日此の不幸が出來したが、明日は汝に出來するであらう”と云ふ場合の應用語句。“今日我死す、明日汝死せん”などの場合にも應用される。
- Homo homini lupus. (外. 参.) プラウトウスの語句。ベーコンやホップスによつて應用された。“人は往々同胞に害を加へる”と云ふ意味。
- Homo sum: humani nihil a me alienum puto. (私は人である: 荷も人に關する事ならば何事もよそごととは思はぬ。) 人間の連帶責任の觀念を表明したるテレンチウスの語句。人類の幸不幸に對して同情を表する場合の應用語句。
- Honos alit artes. (英. 参.) チチェロの格言。冷淡無頓着又は冷遇などは藝術家又は詩人

- Horresco referens. (英. 参.) などに取り殆と致命傷である。人々より受くる尊敬、優遇、榮譽等によつて其の苦心が開るられるの意味。
- Hospes, hostis. (外人即敵人.) ラコオンの死を語れるエネアスの語(ヴェルギリウス)。然し此語は大抵いつも諧謔的に用ゐらる。
- Hospes, hostis. (外人即敵人.) 凡て外人は皆敵であると云ふ意味にて、極端なる愛國心より出づる過當の語句。原語の二語發音の相似たる處に妙味がある。“狄人、敵人”と云はんが如し。
- Ignoti nulla cupido. (無知者に無欲望。)(知らざる者に何等の欲望も起らぬ。)
- Impavidum ferient ruinae. (世界の)滅亡も其心を動かさぬであらう。)
- Imperium in imperio. (英. 参.) オグイディオスの語句。無頓着には多くの原因があるが、その最も著しきは無知である。
- In abstracto. (抽象的に.)
- In aeternum. (英. 参.) ホラチウスの有名な短詩に於ける語句。義勇の士の不動不屈を示す場合の應用語句。
- In aeternum. (英. 参.) 國家の中に國家を作り又は作らんとするやうな場合の應用語句にて、國民中の特別階級が共通の國法を脱却し又は脱却せんとするを意味する。
- In aeternum. (英. 参.) 修道者が永久の誓願を立てるや

- In ambiguo. (外. 参.) うな場合には、in perpetuum (終身的に)と同義。
- In ambiguo. (外. 参.) いろいろ討論討論されただけでも、問題は未だ in ambiguo に遺存してゐるなどと云ふ場合には、in dubio とも云ふ。
- In anima vili. (外. 参.) 害を動物にためして見る場合の應用語句。
- In articulo mortis. (英. 参.) 宗教上にては臨終に際して洗禮を受けたり、告白(懺悔)をしたりする者多き故、屢々此の語句を用ゐる。
- In cauda venenum. (英. 参.) 羅馬人は蠍毒が其尾にあると云ふところから、最初無害に始まる言論の結尾に毒氣があると云ふことを示す格言を案出したのである。言ひにくいことを話の終に言出す場合などにも應用される。
- Incidis in Scyllam, cupiens vitare Charybdin. (外. 参.) シルラとカリブデイスはメッシナ海峡の有名な暗礁で、古代航海者の太く恐れてゐた所であつた。一方を避けやうとすると、他方にぶつかつてくだけて了つた。この事跡から出た有名な格言。
- In de ira. (外. 参.) ヌヴェナーリスの語句。“怒りの原由は斯々”と云ふ場合の應用語。

Indocti discant et ament meminisse periti. (知らざる者は學び、知れる者は想ひ起してよるこぼんことを。)

In extenso. (英. 參.) 包括的にの意味もある、をつくりその儘全部と云ふ意味より、佛語の *compte rendu in extenso* は“詳細な報告”と云ふことになる、*compte rendu analytique* (概略、大要)の反對。

In extremis. (英. 參.) 死期に際して告白する；臨終に洗禮を受ける；臨終に遺言をするなどの場合の應用語句。

Infandum, regina, jubes, renovare dolorem. (女王よ、得もいはれぬ悲みを繰返せと仰せ給ふにや。)

In foro conscientiae. (英. 參.) エネアスがテイドに對してトロイア攻圍の話を始めるときの語句。(ヴィルヂリウス)。演説などの場合に於て、先づ聽衆の歡心を得んが爲めの冒頭を措くやうな風にして、多少悲しい打ちあげ話を持出すやうな場合の應用語句；常には諧謔的に使用する。

In globo. (全部、纏めて。) 私に此の書籍を全部(纏めて)買ひましたなどの場合の應用語。

In hoc signo vinces. (英. 參.) コンスタンチヌス帝がマクセンチウスと戦はんとしたとき、十字架が空間に於て其軍に示現して；“汝此の(十字架の)標にて勝たん”と云ひたりとの史實に基く語句。帝は十字架と基督の頭文字を帝旗に記したと云ふ。困難な場合に於て勝を制せしむるもの、又は困難に打ち勝たしむるものを示す場合の應用語句。

Initium sapientiae, timor Domini. 舊約聖書に散見する語句。Timor Domini, principium sapientiae (主を畏敬することは、上智の始源である)として載つてゐるところもある。Domini (主〔神〕)の語を他の語に代へて屢々應用される。

In limine litis. (訴訟の前に、訴訟 始まらんとする前に。)

In manus. (外. 參.) 聖書に基督臨終の際大聲に呼び：In manus tuas, Domine, commendo spiritum meum (主よ、我靈を御手に託く)といつて氣絶えたと記してあるところより出た語句。彼は其の in manus を語ると云へば、彼は死ぬる前に其の靈を神に託すと云ふ意味。

In partibus. (英. 參.) 名譽司教にて、支配權なき者に

In poculis. (外. 参.)

就ていふ語句。逆語的に大  
使にも應用する(無任所の大  
公使を指す場合に)。

酒を飲みながら、杯を手を持ち  
ながらの意味にて、inter pocu-  
la (杯盤の間に)とも云ふ。  
多くの人々は鎖細な事件を杯  
盤の間に辯するなどの場合の  
應用語句。

In saecula saeculorum.

(御世の御世に。)

Ad vitam aeternam (永世までに、  
終りなき生命までに)と同じ  
く、公教會の式書に見える語  
句。いつまでもの意味を示す  
場合の應用語句。

In silvam non ligna feras insa-  
nius. (外. 参.)

ホラチウスの語句。佛蘭西の古  
語: “川に水を持って行く”と  
同義。

In situ. (外. 参.)(英. 参.)

鑛物學上に限られた語句、例へ  
ば“ダイヤモンドをその場所  
で(出來た場所=岩のうち=  
で)發見した”などの場合。

In spiritualibus. (外. 参.)

“精神的の意味に於て”とでも  
譯さなければ、日本語にては  
解されぬことがある、例へば  
“凡て商賣は in spiritualibus  
沽聖(聖物賣買)であると云  
ふが如き場合。

Intelligenti pauca. (解る者には  
言葉数が要らない。)

直ぐ解し得る人には、僅かな言  
葉で足りるの意。

In tenui lalor. (外. 参.)

ヴァルヂリウスが蜜蜂に就て語  
らんとしたとき、問題は詰ら  
ないが、結果(名譽)は小さく  
ないと曰つたときの語句。

Intus et in cute. (腹の内まで、  
心の底まで。)

ベルシウスが反對者に對して:  
“私は貴下の腹のなかまで見  
透す”と云つたときの語句。  
“内心及皮下に於て”の意。

In utroque jure.

註解の部 doctor in utroque の條  
参照。

In vino veritas. (外. 参.)

人が酒を飲めば心が春めきて、  
平生言はないことまでも、し  
やべり出すの意。一杯機嫌に  
乗じて事實をしゃべり出すや  
うな場合の應用語句。酔へば  
本性があらはれる場合にも應  
用される。

Invita Minerva. (英. 参.)

Minerva (智慧と藝術の女神)に  
反して、又は“ミネルヴァを  
強いて”の意。ホラチウスの  
語句。才能もなく、靈感又は  
奇想もないのに、強て何かを  
書かうとする作者に就て語る  
場合の應用語句。

Is fecit cui prodest. (自分の益  
になる[と思ふ]者が爲した。)

行つた事が有益であると思ふ者  
が行つたと云ふ意味で、犯罪  
者の如きは、犯罪がいつも自  
分の益になる者である。此の  
語句を應用する場合には頗る

Is pater est quem nupti : demonstrant. (結婚の證明する所の者が父である.) 注意警戒を要す。羅馬法の原理で、佛法で謂ふ“結婚中懐胎されたる子は良人を以て父とすると見做さる”に同じ。

Ita diis placuit. (外. 参.) 出来た事は仕方がない、成りたる事は奈何ともする能はずと云ふ場合の應用語句。

Ita est. (右の通り相違なし.) 古代に於て謄本を正本にひきあはせて檢印したときの語句。

Ite et docete. (外. 参.) 基督が使徒を世界に遣はさんとするとき：“汝等往て萬民を教へよ云々”と言はれたときの語句。

Ite, Missa est. (外. 参.) 公教會に於て司祭が彌撒聖祭の終に、即ち最終の祝福を降す前に、參集せる信徒に向つて唱へ又は歌ふ語句。

Missa (彌撒)は“返す”の意、其譯は往昔同聖祭を執行せんとするとき志願者を會堂より去らしめた古事に基く。

**J**

Jam proximus ardet Ucalegon. (外. 参.) エネアスがめをさまして、トロイアが火焰のうちにあるを見たとき叫びたる語句。(ウィルゲリウス)。Ucalegon は年老いたトロイア人の名にて、其家が焼けたのである。危険の近きを示す場合の應用語句。

Judicatum solvi. (訴訟費は拂は 法律上に限られた語句。他國

れた。)

Jurare in verba magistri. (英. 参.) (の訴訟)人が佛蘭西の法廷に於て起訴するとき豫め拂はなければならぬ費用金額を指す場合の語句。Caution judicatum solvi は“外國人の訴訟費用保證”を指す。

Jus est ars boni et æqui. (外. 参.) ホラチウスが、己等の師と仰ぐ哲學者の權威のみを以て足れりとする門弟等に就て語りたる語句。

Justæ nuptiæ (法律上の結婚.) ユスチニアヌス帝の命により法學者の編纂した羅馬法律彙集の定義。

Justum et tenacem. (外. 参.) 適法の婚姻の意味。

M ferient ruinae の條參照。

**L**

Labor omnia vincit (improbis.) (英. 参.) ヴィルゲリウスの語句。Improbis の語を省かざるを常とす。“辛抱強き勤勞は萬事に打克つ”。

Latet anguis in herba. (英. 参.) ヴィルゲリウスの語句。危険の伏在に對する警戒を加へる場合の應用語句。

Laudator temporis acti. (英. 参.) ホラチウスが、老人は常に現在を悪く言つて、過去をほめる傾癖があるといつたときの語



Lege, quaeso. (どうか、読んで頂きたい。)

Levius fit patientia Quidquid corrigere est nefas. (凡て療治の出来ないものは、忍耐で軽くなる。)

Lex est quod notamus. (外. 参.)

Lucidus ordo. (英. 参.)

句。  
生徒が先生からほめられたいと思ふとき、自分のかきものの、冒頭に書く語句。

ホラチウスの哲學的格言。

巴里公證人會の標語。ジャン、ドゥ、サントゥエの語句なりと云ふ。サントゥエは巴里の詩人(1630—1697)。

ホラチウスの語句。Lucidus ordo は佛蘭西の大文豪の特徴の一であると云ふ。

### M

Macte animo! (英. 参.)

Magister dixit. (英. 参.)

スタチウスの詩句: Macte animo, generose puer, sic itur ad astra (健兒よ、勇を鼓せ、斯して天までに行かれる)より出でたる語句。ヴァルヂリウスは多少之を改變す。

中世のスコラ哲學者等が、ピタゴラスの門弟の如く、師(アリストテレス)の説を掲げて、抗辯を許さなかつたときの語句。今日にては此の語句延い

て凡ての學派、宗派、政黨等の首領に就て應用さる。Ipse dixit (彼言へり)も之と同義。(希臘語にては autos ephē). 一時泰西にてはアリストテレスの權威が非常に偉大にして、Magister dixit (師かく言へり)と云ふときは、衆咸直に平伏したと云ふ、彼のカントは之を見て憤然として起つたとのことである。

Magnæ spes altera Romæ (大羅馬の第二の希望。)

Magni nominis umbra. (英. 参.)

Ma'or e longinquo reverentia. (遠隔により益々尊敬加はる。)(遠ざかるに従て益々威光がつく)

Majores pennas nido. (巢よりも大きな羽を)

ヴァルヂリウスがエネアスの子アスカニウスを指して語りたる語句。國家の第二流入物を指す場合の應用語句。

元來はルカヌスが、義勇を失つたときのポンペイウスに對して言つた語句。凡て時めく時代の過ぎ去つて、僅にその面影を偲ばしむる人物を指す場合の應用語句。さかりの過ぎた事柄にも應用される。

タチトッスの名言。吾人は時代に於ても 方處に於ても、吾人より遠く離るゝ者を感嘆する傾解があると云ふ場合の應用語句。

ホラチウスの語句。いやしい身分でありながら、大望を抱

Margaritas ante porcos. (豚の前に眞珠を〔投げ與ふる勿れ。〕) 聖書の語句。無學者の前に〔其の〕解らないやうな事を話すたと云ふやうな場合の應用語句。

Materiam superabat opus. (英. 參.) オヴィディウスの語句。藝術的作品又は著書などが其の取扱つた材料よりも優つてゐる場合の應用語句。

Maxima debetur puero reverentia. (外. 參.) ユヴェナーリスの語句。清淨無垢の小兒を教育するには如何程注意すべきかを知らしむる場合の應用語句。

Mea culpa. (英. 參.) 公教會の告白の新禱中“是れ我が過なり、我が過なり、我が最と大なる過なり”と云ふ語より出でたる語句。

Medice, cura teipsum. (醫者よ、汝自らを治療せよ。) 他人のことをかれこれ云ふ前に先づ自分のことを省みるがよいと云ふやうな場合の應用語句。

Melioribus annis. (幸福な時代に於て。) (過古の盛時に於て。) ヴィルヂリウスの語句。過ぎにし於善き時代に於ての意味。

Me, me adsum qui feci. (それを爲したのは私である、私である。) ヴィルヂリウスの詩の中に、ニズスが其友の打たれんとするところを遮らうとしたときの叫びの語句。

Mens agitat molem. (外. 參.) 宇宙の凡神論的解説をなしたる

Mens divinior. (神來の靈智、靈感。) ヴィルヂリウスの語句で、一種の精靈が宇宙を動かしてゐると云ふ意味。凡て知識が物質を支配してゐることを指す場合の應用語句。

Mens sana in corpore sano. (健全な身體に於ける健全な精神。) ホラチウスが天外よりおつる奇想を示した語句。詩人の天啓、天來の妙思等を示す語句。

Minima de malis. (禍の中で最も小なるものを〔選べ。〕) ユヴェナーリスの格言。同詩人の言に曰ふ、眞個賢明なる人は身體の健全を作ふ精神の健全のみ天に祈求すと。應用の場合には、此の語句を多少原意より遠からしむること多くして、身體の健全なるは精神の健全なる必要條件の如く解せしむるが如し。

Minus habens. (無能の人。) フェードルの物語から出た語句。「少ない人」と云ふ意にて、才能の少ない人を指す場合の應用語句。

Mirabile visu. (珍しい見もの。)(英. 參.) 眞に珍しい觀覽物の意にて、羅句語にては、見るに珍しいものと云ふ、之と同じ語法で、mirabile dictu (言ふに珍しいこと) (言ふべく珍しい事) と云ふ。

Modus vivendi. (くらし方、生活條約などにては“暫定協約”の

方法、妥協案、和解案。)

Molle atque facetum. (優雅と鋭敏。)

Monstrum horrendum. (英. 参。)

Mors ultima ratio. (外. 参。)

Motu proprio. (英. 参。)

Multa paucis. (英. 参。)

Multi sunt vocati, pauci vero electi. (外. 参。)

Mutatis mutandis. (英. 参。)

Muta'o nomine. (名だけ變つて。)

意味に使用されてゐる。  
ミューズがヴィルギリウスに與へた賜だといつたホラチウスの語句。  
ヴィルギリウスが、ウリセスから失明させられた一眼入道(神話中の一眼の巨人)を形容した語句。Monstrum informe (醜惡なる怪物), monstrum ingens (巨大なる怪物)とも云ふ。  
憎悪も、嫉怨も、萬事皆人の死によつて消失して了ふから、死は人間萬事の最終の理由であると云ふ。  
自發的に、自己の自由意志の意味。羅馬教皇の勅書の意味もある。  
簡潔なる筆致の文士を指す語句。言少く意多しの意味。  
福音の語句で、末世にのみ關して語られたものなれども、多くの場合、現世にも應用される語句。  
法案などを採用する場合に、必要なる變更(修正)を加へてと云ふときの語句。  
名前が變つただけで、實は同じと云ふ場合の語句。單に名稱のみの變更に過ぎないの意

N

Nascuntur poetae, fiunt oratores. (詩人は天稟にして、辯は修練による。)

Natura non facit saltus. (外. 参。)

Nec mortale sonans. (外. 参。)

Nec pluribus impar. (多くの太陽にも劣らぬ。)

Nec plus ultra. (外. 参。)

直譯すれば、詩人は自然に生れて來るものである、辯士は人為的に成るものである。詩は自然の子にして、辯は術の子と云ふと同義。  
自然は決して遠く隔離した種をも、類をも造らない、必ず其の中間に介在して兩者を聯結するものがあると云ふライプニツの格言。  
巫女が預言的靈感に打たれてゐる状態を形容したヴィルギリウスの語句。大辯士、大詩人などに應用される語句。  
佛王ルイ十四世の自負的標語。常人に超越してゐると云ふ意味。  
ヘルクレスが世界の界限と思つたカルペとアピラの兩山に刻みつけたと云ふ語句〔神話〕。より以上越えられない又は越えることの出來ない窮極を指す語句。例へば此像は美のnec plus ultraであると云へば、これより美しい像は作れないと云ふ意味。(此の場合寧ろ

“極致”の譯語が適當ならん。  
 Non plus ultra も同義。

Neque semper arcum tendit  
 Apollo. (アポロロはいつも弓  
 を張らず。) ホラチウスの語句。神でも時  
 には休むと云ふ意味にて、休  
 息の必要なるを語る場合の應  
 用語句。

Nescio vos. (外. 参.) 福音書の譬話に、愚かなる童女  
 等が婚筵に来るの遅かりし爲  
 め門を閉ぢられ、“我は爾等を  
 知らず”と曰はれたと云ふ話  
 より出た語句。拒絶する場合  
 の應用語句。

Nescit vox emissa reverti. 一たび書物に書き記したことは  
 取返しかつかないと云ふホラ  
 チウスの語句。同詩人は世の  
 文士にその作品を世に公にす  
 る前には推敲に推敲を重ねる  
 爲に永く手許に留め置く筈で  
 あると語つた。

Nil actum reprensans, si quid  
 superesset agendum. (外. 参.) ルカヌスの詩句であると云ふが、  
 同詩人の句は Nil actum cre-  
 dens, si quid superesset agendum  
 (成すべき何事かの残つてあ  
 る限り、成されたものは何に  
 もないと信じて)である。チェ  
 サールの人格を表明した適切  
 の語句として見るべきである。

Nil admirari. (何事にも感激し  
 ない。) ホラチウスの語句。同詩人の言  
 によれば、これは幸福の原理

を説いたストアックス哲學の格  
 言であると云ふ。何物にも驚  
 かず、何物にも心を動かさず  
 と云ふ場合の應用語句〔此の  
 場合無頓着の標語〕。

Nil medium est. (外. 参.) 二つの辛い事に接してそのいづ  
 れかを選ばなければならぬ場  
 合の應用語句。

Nil novi sub sole. (外. 参.) “日の下には何の珍らしいこと  
 もない”の意味にて、サロモ  
 ンの語句。

Noli me tangere. (英. 参.) 基督が復活後マリア、マグダレ  
 ナに向ひ“我に<sup>サハ</sup>捫ること勿れ”  
 (我身に觸るゝな)と曰ひたる  
 語句〔福音書に見ゆ〕。宗教上  
 にては、觸つてならぬ物、神  
 聖にして手をつけれぬ物な  
 どに就て語る場合の應用語  
 句。

Non bis in idem. (外. 参.) 法律上などには、同罪は二度判  
 決せずなどの場合の應用語句。

Non decet. (外. 参.) 言語又は舉動の無作法なるを警  
 戒する語句。

Non erat his locus. (その場所  
 ではなかつた。) ホラチウスが脱線した言論〔問  
 題外の言論〕を非議したとき  
 の語句。折悪いときに行は  
 れる事柄を指す場合の應用語  
 句。

Non ignara mali, miseris suc- ティドがエネアス及エネアスと

currere disco. (外. 参.) 流浪の苦を俱にした隨行者を迎へたときの優しい言葉。

Non licet omnibus adire Corinthum. (外. 参.) コリントに快樂を極むるに非常に費用を要し、誰も彼も其處に行つて遊ぶ譯に往かぬと云ふ希臘の諺の羅句譯。資力がなく錢がなくして断念しなければならぬ時に應用される語句。

Non liquet. (外. 参.) 不明にして、餘り能く解らない事を示す場合の應用語句。

Non multa, sed multum. (英. 参.) 事績の價値は其の數量によるものではなく、其の重要なや否によつて定まることを示す語句。

Non, nisi parendo, vincitur. (外. 参.) ベーコンが自然に對して語りたる語句。自然を人の要求〔需要〕に充てやうとするには、其の法則に従はればならぬと云ふ意味。

Non nova, sed nove. (外. 参.) 獨創の新思想を齎した譯ではないが、既知の思想を新しい文に載せて、自家固有の思想のやうにする文士などに應用する語句。

Non omnia possumus omnes. (外. 参.) 凡ての人は凡ての適能適才を有つてゐるものではない、人は萬能者ではないと云ふヴァルゲリウスの語句。君子は器

ならずと云ふやうな意味。

Non omnis moriar. (外. 参.) “私は全く死んで了はぬであらう、何ぞなれば私の著作が遺るであらうから”と云ふホラチウスの語句。宗教家は之を應用して；我が全部は死滅しない、我が靈魂が永久不滅であると云ふ場合に應用して、“我豈悉く死せんや”と云ふ。

Non possumus. (外. 参.) 使徒ペートルスとヨアンネスが福音を宣傳したとき、それを禁止しやうとした祭司の長に答へた語句。拒絶する場合の應用語句。〔出來兼ねます〕。

Non videbis annos Petri. (外. 参.) 聖ペートルスは十四年間教皇の位に在つた。爾後凡ての羅馬教皇に當嵌めることが出来る語句。

Nosce te ipsum. (英. 参.) デルフィの殿堂の破風上に刻書された有名な希臘金言を羅句譯にした語句。

Novissima verba. (外. 参.) 近代の羅句語句。常には人の臨終の際の遺言を指す。

Nonne o Deus impare gaudet. (神は奇數を悦ぶ.) 古代の希臘人が神妙な特性を奇數に歸してゐたのを言ひ表はしたヴァルゲリウスの語句。

Nulla dies sine linea. (外. 参.) プリニウスが希臘の畫家アペルレスに當嵌めた語句。同畫家は畫筆を執らずに一日も過し

Nunc dimittis servum tuum,  
Domine. (外. 参.)

たことはなかつたと云ふ。特に文士に應用される語句。救世主を見ざる間は死せずと聖靈に示されず猶太の老人シメオンが、救世主なる嬰兒を抱きつゝ“主よ、今…僕を安然に世を逝せ給へと目つた古事に基く語句。大願成就、最う死んでも思ひのこすことはないと云ふ場合の應用語句。

Nunc est bibendum. (外. 参.)

アリチウムの海戦勝利の際に作りたるホラチウスの短詩中の語句。大成功、大捷利、望外の成功等を祝すべき場合の應用語句。

O altitudo! (嗚呼高遠なるかな!)

聖パウルスが神の智と識の高遠なるを嘆美した語句。測り知るべからざる玄義妙理に對する時の應用語句。

Obscurum per obscurius. (外. 参.)

論證益々暗晦に入ると云ふやうな場合の語句、例へば阿片は人を眠らせる、何となれば阿片は催眠力を有するからと云ふが如きを云ふ。〔此の場合寧ろ循環論證とでも謂ふべきである〕、

Oculos habent et non vide-

ダヴィドの詩篇の語句。異邦人

bunt. (目を有つてゐても、見ないであらう。)

の偶像を形容したもの。〔註解 Aures habent et non audient の條参照〕。何等かの原因により知識的盲目となりたる者に應用される語句。〔同じ詩篇中に Os habent, et non loquentur (口を有つてゐるが、語らぬであらう), manus habent, et non palpabunt (手を有つてゐるが、觸はらぬであらう) の語句がある〕

Oderint, dum metuant.

〔〔彼等が〕恐れてゐさへすれば、〔我を〕憎んでも可い。〕

アッティウスの詩句からチチェロの授用した語句。専横にして疑心の深き君主の好標語。

Odi profanum vulgus. (外. 参.) (英. 参.)

ホラチウスが愚俗の拍手喝采を蔑視して、識者のみの賛同を求めると自負せるときの語句。

O fortunatos nimium,  
sua si bona norint,  
Agricolae. (外. 参.)

ウィルギリウスの語句。自ら其の價値を知らずして、其の幸福を享有してゐる人々に應用する語句。

Oleum perdidisti. (汝は油〔時〕を空費した。)

古人は何にもならぬ仕事をしたときには、油を空費したと言つた、作者が駄作を出した場合にも應用される語句。

Omne ignotum pro magnifico. (英. 参.)

タチトウスの語句。未知の事の如何にも珍らしさうに思はれるを言顯した語句。

Omne tulit punctum, qui  
miscuit utile dulci. (英. 参.)

Omne vivum ex ovo. (凡て  
生物は卵〔胚種〕より生ずる.)  
Omnia mecum 100 (予は  
凡ての寶を身につけてゐ  
る.)

Omnia serviliter pro domi-  
natione. (主權〔を得る〕の  
爲に何事も奴隸のやうに.)  
Omnia vincit amor. (英. 参.)

Ora pro nobis. (外. 参.)

O sancta simplicitas. (外. 参.)

ホラチウスの語句. 成功したる  
人, 萬人の投票(賛同)を得た  
る人を稱して omne tulit pun-  
ctum (全投票を得た)と云ふ.

英の醫師且解剖學者 Harveyの  
生物學上の格言.

希臘の七賢人の隨一なるピアス  
の語句. ピアス郷國ブリエ-  
ネがシールスの軍に攻められ  
んとしたとき, 市民は皆其の  
財産を持つて逃げ去りたるに,  
ピアスのみ泰然自若としてゐ  
たのを見て驚き, 其の理由を  
きゝたる時答へたと云ふ語  
句. ピアスの意見には, 財産  
の如きは運命の翻弄物にして,  
眞の寶は學徳に在ると云ふこ  
とを知らしめたのである.

オトが主權を掌握しやうと欲し  
て, 群衆に阿諛を呈したるを  
形容したタチトッスの語句.

神人の絶對征服者なる愛の化身  
(化身せる愛)に就て語りたる  
ヴィルヂリウスの語句.

公教會の祈禱文中にある連禱の  
うちに繰返される語句.

Jean Hus が己の燒殺されてゐ  
る火刑場に老婆の薪を持ち來  
たれるを見て叫びたりと云ふ

Os homini sublime dedit.  
(外. 参.)

O magna sonaturum. (高崇  
な言葉の出づる口.)

O tempora! O mores! (英. 参.)

O ter quaterque beati!  
(外. 参.)

Otium cum dignitate. (英. 参.)

O ubi campi! (外. 参.)

語句. 反語的に無邪氣なる  
言語又は舉動を嘲弄する場合  
の應用語句.

オヴィディウスが創世に就て語  
りたる時, 人は高遠な理想  
を憧憬し得る姿勢に造られた  
ことを歌つた詩句.

ホラチウスの語句. 同詩人は,  
天才があり, 神の知識がある  
者でなければ, 詩人の名を以  
て稱さなかつた.

チチェロが時人の腐敗を打撃し  
た語句. 時世を慨嘆する場  
合の應用語句.

エネアスが國を擁護しつゝ國難  
に殉じたるトロイア人の運命  
を美望したときの語句. [ヴィ  
ルヂリウス].

チチェロが公生涯を隱退した羅  
馬人の理想を示したときの語  
句.

ヴィルヂリウスが田園の閑居を  
追慕した語句. ホラチウス  
も異言同義の語句を以て歌つ  
た: O rus! quando ego te aspi-  
ciam? (あゝ田園よ, いつ我汝  
を見ることを得ん!)

P

- Pate, non dolet. (ベトウスよ、痛くはありません。)
- Panem et circences. (パンと圓形競技場の戯を。)
- Parcere subjectis et debellare superbos. (弱を扶け、強を挫く。)(服する者を恕し、傲れる者を挫くの意。)
- Par pari refertur. (外. 参。)
- Parturiunt montes : nascetur ridiculus mus. 外. 参。)
- Passim. (各所に、隨所に、あちこちに、此處彼處に、處々方々に。)(英. 参。)
- Patere quem ipsi fecisti legem. (外. 参。)
- アルリアが、其の良人ベトウスがクラウディウス帝を扶せんとした陰謀に加りたる爲め、自ら自害した刀を良人に渡して自刃せしめたときの語句。
- ユヴェナーリスが澆季の羅馬人が夢と觀覽無料の戯のみを追求してゐたのを輕侮した語句。
- アンキセスがエネアスに羅馬國民の將來の使命を語りたる語句。〔ヴィルザリウス〕。
- モイセスの律法に於ける Oculum pro oculo, dentem pro dente (目に目を、齒に齒を)と殆ど同義。
- ホラチウスの語句。徒らに約束のみ大にして實際の結果の伴はざる場合の應用語句。
- 引用書を掲げ、参照する所が同書の各所に散見する(記載されてゐる)と云ふやうな場合の應用語。
- 自分の制定した法律ならば、自分も其の法律に従はなければならぬ。

- Paterna, paternis; materna, maternis. (外. 参。)
- Patiens, quia æternus. (無始無終なるが故に、勸忍深き者なり。)
- Pauca, sed bona. (英. 参。)
- Pauci quos æquus amavit Jupiter. (公正なるユピテルの愛した少数者。)
- Paulo majora canamus. (今少し雄大なることを歌はん。)
- Paupertas impulit audax. (貧故の度胸が私を驅つた。)
- Peccavi. (罪を犯せり。)
- Pectus est quod desertos facit. (雄辯家とならしむるものは胸心である。)
- Pede pœna claudo. (外. 参。)
- 古代羅馬に於ける遺財歸屬法の語句。
- 聖アグスチヌスが世の罪逆滔天の勢なるに、神の勸忍の不變なるを見て、感嘆したる語句。
- あの著者の遺書は少いけれども、その代り良いものばかりであるなどと云ふ場合の應用語句。
- ヴィルザリウスの語句。此の少数者のみ地獄より脱することを得たと云ふ。特殊の性格又は特殊の幸福を具備してゐる人々を指す場合の語句。
- 一の問題より他のモット重要な問題に移るとききの語句。
- ホラチウスの語句。貧乏は人を驅つて、貧乏でないときに出来ない事をも企てしめるの意。
- ダヴィド聖王が預言者ナタンより譬話を以て譴責されたときの語句。人が自分の過を自白する場合の應用語句。
- クインチリアヌスの語句。佛國のヴォヴナルグの“富想は心より出づ”と云ふ格言に類似してゐる語句。
- 罰に犯罪後必ずしも直に隨伴し。



- く來なくても、遅かれ早かれ必ず到來すると云ふことを示したるホラチウスの詩句。
- Pejor avis aetas. (外. 参.) ホラチウスの aetas parentum pejor avis (父母の時代は祖父の時代に劣つてゐる) と云ふ詩句から出た語句。
- Perinde ac cadaver. (屍の如く.) 耶蘇會の創立者イグナチヨ、デ、ロヨラが會員に會長に對する絶對服従を規定した語句。
- Pendent opera interrupta. (事務中絶す.) ティド女皇がエネアスに熱中〔懸想〕してゐた間、カルタゴには事務が中絶の姿であつたことを言顯はしたヴィルヂリウスの語句。
- Persona grata. (お気に入り.) 外交上にては駐劄國の君主に歡迎される人物を指す語句。
- Pertransiit benefaciendo. (善事を行ひつゝ周遊せり.) 使徒聖ペートルメスが基督の恵を施しつゝ天下を巡遊したことを語りたる語句。同胞の慰問などに従事して生を送りたる人々を指す場合の應用語句。
- Plaudite, cives! (市民よ、喝采せよ.) 羅馬の俳優が、喜劇の終に觀衆の喝采を要請した語句。(おてうち御喝采の程を願ひますと云ふやうな言葉.)
- Plerumque fit. (外. 参.) 一種の名詞のやうに使用するとき、例外の反對の意味に用ゐる。

- Plurima mortis imago. (死のいろいろの光景.) エネアスがティドにトロイア城滅亡の最後の夜の光景を語りたる語句。(ヴィルヂリウス)
- Post equitem sedet atra cura. (外. 参.) ホラチウスが人其心に不安、煩悶、憂愁のあるときには、それを散じやうとしても散じ難きを形容した語句。遺悶の道なきを示す場合の應用語句。世が文明になつても、人心の不安、煩悶を慰する道なしと云ふやうな場合にも應用される。
- Post hoc, ergo propter hoc. (外. 参.) スコラ哲學上で、時期の先だつてゐるだけのものを原因のやうに見做す謬論を示した語句。
- Post mortem, nihil est. (死後何にもない.) セネカの詩句の首めの語句。終には ipsaque mors nihil (而して死そのものも何でもない) と云ふ語句がある。
- Potius mori quam foedari. (外. 参.) Vergnia d (ヴェルニオー) (佛の政治家) 又は Destournelles (蔵相) の語句なりと云ふ。凡て名譽を生命よりも重んずる人々の標語となるべき語句。
- Præsente cadavere. (屍を前に置いて、屍の前に.) 羅馬教皇崩去の場合、教皇廳の事務長(教皇職空位の時公教會の事務萬端を主宰する樞機員)が、若し教皇の遺言によりて處分すべきことある場

Primo avulso, non deficit alter. (一難去つて、他難また来る。)

Primo mihi. (先づ第一己の爲に。)

Primum vivere, deinde philosophari. (外. 参。)

Pro domo sua. (我家の爲に。)

Prolem sine matre creatam. (母なくして生れた子を。)

Pro memoria. (英. 参。)

Pro rege saepe, pro patria semper. (國王の爲にはたびたび、國家の爲にはいつも。)

Pulchre, bene, recte! (美しく、善く、正しく。)(奇麗に、立派に、完全に。)

合には死骸の前に、それを朗讀しなければならぬ。  
 ヴェルギリウスの語句。 艱難や仇敵などの絶えず新陳代謝する場合の應用語句。  
 利己主義者の語句。  
 哲學上の議論を戦はすのみを知つて、生活の道を知らざるを嘲弄した古人の訓誡  
 チチェロがクロディウスに對して己の事件を辯護 したときの語句。 自己の事件、自己の主張の爲に擁護する場合の應用語句。  
 オウィディウスの語句にて、モンテスキューは之を共著「法律の精神」の題辭となし、同書のモデルなかつたことを示した語句。  
 久しき以前より消滅に歸してゐる権利などを思ひ出しむる爲め外交上に用ゐる語句。  
 コルベール〔佛の政治家〕の標語。  
 ホラチウスがまゆつばものだといつた親切過ぎる批評家の語句。

Pulsate et aperietur vobis. (叩けよさらば開かれん。)

Punica fides. (不信。)(カルタゴ人の信實の意。)

福音書の語句。 飽迄も追求せしめ、努力せしむる場合の應用語句。  
 羅馬人はカルタゴ人の屢々條約を破りたるを非議したところより出た語句にて、不誠實、不信實、不忠實の異言同義語となつてゐる。

Q

Quaerens quem devoret. (英. 参。)

Qualis artifex pereo! (われは如何に偉大なる藝術家として死するよ!)

Quandoque bonus dormitat Homerus. (ホメロスも時にはねむることがある。)

Quantum mutabis ab illo! (外. 参。)

Quantum satis. (外. 参。)

使徒ペートルスが悪魔を形容した語句。  
 スエトニウスの説に據れば、ネロ帝が自刃する前に、世は劇場に又圓形競技場に於て己のやうに盛名を博した人物の死によつて如何なるものを失ふであらうかを示さうとして叫んだ語句であると云ふ。  
 ホラチウスの語句にて、天才尚文豪でも必ずしも名文ばかりを草すると限らぬことを示したものである。  
 エネアスがヘクトールのきずだらけになつて夢に現れたのを見て驚きつゝ放つたと云ふ語句。〔ヴェルギリウス〕。  
 足りるだけの量又は相當の分量を指す藥學上の語句である。

- 略字は Q. S. Quantum su-  
 cit (英. 参.) も之と同義.
- Quia nominor leo. (外. 参.) フェードルス物語; 出た語句. 分捕物の第一の分前を己に要求するが爲に獅子の掲げた理由. 暴力, 権利などを濫用する者に対する場合の應用語句. 佛蘭西にてはラフォンテーヌの物語中の“獅子の分前”と云ふのも之と同義.
- Qui bene amat, bene castigat. (外. 参.) 罰する人の目的は其の愛する所の者の缺點又は悪癖をのみ矯正するにあるが故に, 此の語句はたやすく應用される.
- Quid deceat, quid non. (外. 参.) ホラチウスの語句. 善い所を取り, 悪い所を捨てる爲に, 適不適を考へよと云ふやうな場合の應用語句.
- Quid juris? (外. 参.) 法律上の解釋はどうであるかの意味.
- Quidquid delirant reges, plebuntur Achivi. (外. 参.) ホラチウスの語句. 下々の者はいつも上位の者の失態の罰を受けることを意味する場合の應用語句.
- Quidquid tentabam dicere verus erat. (外. 参.) オヴィデウスが其父より詩を作ることを禁ぜられた時に答へた語句で, 此の語句それ自らも詩であつたと云ふ. 詩に對する傾辭の不可抗なるを示

- す語句.
- Quieta non movere. (外. 参.) 鎮靜した争ひを再び煽り立て、はならぬことを示す爲に政治上又は宗教上屢々應用される語句.
- Qui habet aures audiendi, audiat. (外. 参.) 福音書中基督の譬話の裡に屢々繰返される語句. 教訓を利用すべきことを警告する場合の應用語句.
- Qui nescit dissimulare, nescit regnare. (外. 参.) ルイ十一世の愛誦した金言.
- Qui scribit, bis legit. (外. 参.) 羅句の格言. 原文を理解したり, 暗記したりする爲に, それを書くのは二度讀むにひとしいと云ふ意味.
- Qui sine peccato est. (罪なき者.) 姦淫したる婦人に就て基督の答へた有名な語句. [罪なき者先づ彼を石にて撃つべし]と云ふ言葉より出た語句.
- Quis, quid, ubi, quibus auxiliis, cur, quomodo, quando. (外. 参.) 修辭學上 人, 事實, 場所, 手段, 理由, 方法〔仕方〕及時と稱してある所のことを示す術語的六脚詩にて, 刑事訴訟上にて! 犯罪者誰か? 犯罪は何か? 何處で犯罪が行はれたか? 如何なる手段若くは如何なる共犯者と共に行はれたか? 何故? 如何にして? 何時? と云ふことにも應用される.

Quis tulerit Gracchus de seditione querentes? (騒亂を非難してゐるグラツキを誰が忍ぶだらうか?)

Quod ab omnibus, quod ubique, quod semper. (外. 参.)

Quod di omen avertant!  
(外. 参.)

Quod erat demonstrandum.  
(英. 参.)

Quod scripsi, scripsi. (外. 参.)

Quomodo vales? (外. 参.)

Quorum pars magna fui.  
(私はその大部分に参加した.) (私はその大部分であつたの意.)

クインチリアーヌスより傳りたる語句.

ユヴェナーリスの語句. 自分の使用した手段方法を非難する人々に對する應用語句.

聖者ヴァッサン, ドゥ, レレンス(Vincent de Lérins)が公教會に於て傳統的信條(信仰箇條)を決定する爲の實行的規定として提出した語句.

斯々の禍の出來せざることを希望する語句.

證明した後に屢々語る語句にて、書物の中に「略字 Q. E. D. の頭文字を以て記してある.

祭司の長等がポンチウス, ピラトゥスに向ひ、十字架上に「Jesus rex Judæorum(猶太人の王耶穌)」と記したことを非難したとき、ピラトゥスの答へた語句. 一たび決定したことの撤回し難きを言顯はす場合の應用語句.

友人間に日常の挨拶として用ゐる語句. 友人の健否を問ふ語句.

エネアスがトロイア滅亡の最後の夜の光景を叙したときの語句. [ウィルザリウス]. 自分の多く参加した事件を示す場合

Quos ego... (それを我は...)

Quos vult Jupiter perdere, dementia prius. (ユピテルの其の滅ぼさうと思ふ所の者を、先づ精神錯亂せしめる.)

Quae capita, tot sensus.  
(外. 参.)

Quot homines, tot sententiae.  
(外. 参.)

Quousque tandem. (外. 参.)

Quo vadis, Domine. (外. 参.)

Rara avis in terris. (外. 参.)

の語句. 多少参加した場合には, magna の代りに parva [僅少] の語を用ゐる.

ネプトゥス(海神)が海上に吹き來る暴風に對して怒つて止めたときの語句. [ウィルザリウス]. 長上の激怒, 威嚇を意味する場合の應用語句.

ユリピデスの思想を羅句語に譯した語句. Jupiter の代りに Deus(神)の文字を入れて應用する場合もある.

諸説紛々, 議論百出, 衆議一決しない場合の應用語句.

テレンチウスの語句にて, Quot capita, tot sensus. と同義.

カチリナが國家に對して企てた陰謀發覺後, 圖々しくも元老院に入り來りたるとき, チチエロが之に反對せる抗爭論の首めの語句.

使徒聖ペートルスが羅馬を立去つて行かうとしたとき, 基督が示現したので, 之に對して問ふたときの語句.

## R

ユヴェナーリスがルクレチウス

Rari nantes in gurgite vasto.

(英. 参.)

Redde Caesari quae sunt

Caesaris, et quae sunt Dei

Deo. (チエサールのものは

チエサールに, 神のものは

神に歸すべし.)

Regis ad exemplar. (王の手本

に従つて.)

Relicta non bene parmula.

(不名譽にも楯を遺棄して.)

Requiescat in pace. (外. 参.)

Res angusta domi. (家計の困

難.) (英. 参.)

Res iudicata pro veritate habetur.

(判決されたことは眞

實と見做される. 判決済の

とペネロプに就て語つた語句であるが, 延て, 凡ての珍しいもの, 稀有のものに應用される語句. 單にrara avisの二語のみを用ゐる.

エネアスの隨伴者が海上暴風の際に難儀艱難した時の光景を叙したヴィルギリウスの語句. いろいろの場合に應用される. ファリセイ人がチエサールに納税すべきやと巧辯な問を提出したとき, 基督の之に答へた語句.

クラッティスの語句. 凡ての人は王即ち其主の手本に従つて行ふべきことを示した語句.

ホラチウスが戦争に参加したとき自白した語句. 敵を見て逃げ出す者を示す場合の應用語句.

公教會に於て死者追弔祭のときに唱へ又は歌ふ語句. たびたび墓石などにも刻書する.

ユヴェナーリスの語句.

古代法律上の金言.

事件は事實と思はれる.)

(英. 参.)

Res perit domino. (損害物は

所有主の損失に歸する.)

Res sacra, miser. 不幸な者

は, 聖いもの.)

Retro, Satana! (サタンよ, 退

げ.)

Ridiculus mus(註解 par-

turiunt の條参照)

Risum teneatis. (英. 参.)

Salus populi suprema lex esto

(外. 参.)

Sancta sanctorum. (外. 参.)

羅馬法の格言, 佛法にも採用されてゐる語句. 不可抗力の場合の規定.

不幸を鄭重に取扱はなければならぬと云ふセネカの語句.

基督の言葉, 福音書には馬太傳と馬可傳とには多少異つた文句で記されてゐる, 前者には“サタンよ, 退け” 後者には“サタンよ, 我後に退け”. Vade retro, Satana! も同義. 人を拒絶し, 其人の提出を拒否する場合の應用語句.

ホラチウスの語句. 可笑な事に對する場合の應用語句.

## S

羅馬の公法上の格言. 國家の危急を救ふ場合には, 凡ての私法は消失すべきを示す語句.

猶太人が神殿の一番聖い所(奧殿)を指したのを羅句語に譯した語句(聖所中の聖所の意味). 凡て俗人の入るを許さぬ場所を指す場合の應用語.

Scribitur ad narrandum, non  
ad probandum. (外. 参.)

Sedet aeternumque sedebit.  
(外. 参.)

Semper ad eventum festinat.  
(外. 参.)

Servum pecus. (外. 参.)

Si augur a gurem. (外. 参.)

Sic transit gloria mundi.  
(外. 参.) (英. 参.)

クインチリアーヌスが歴史と雄辯との區別を示したときの語句。

テゼウスが地獄に罰せられたのを叙したウィルザリウスの語句。此の英傑(テゼウス)は其の放浪生活の償として、地獄に於て永久坐してゐる罰に處せられたと云ふ。

ホラチウスがホメロスに就て語つた語句、〔凡ての史詩の手本として〕〔大團圓に急ぐの意〕。

ホラチウスが文壇の模倣者を非議した語句。おべつか使ひや、剽竊家や、佞臣などが形容する場合の應用語句。

老カトの金言。チチェロは多少違つた語句を以て之を引用した。巷間の賣卜者に対する頂門の一針。(彼等は相會したとき失笑と禁じぬなかつたことが多かつたと云ふ)。

“遵主聖範”〔基督の模範〕〔Imitatio Christi〕と云ふ書物から出た語句。失寵者、失位者又は一時時めいてゐた入が、一朝にして世に忘れられるやうになつた者などに應用される語句。

Sic vos non vobis.

(外. 参.) (英. 参.)

Sine die. (外. 参.)

Sine ira et studio. (外. 参.)

Sine nomine virgus. (外. 参.)

Sinite parvulos venire ad me.  
(嬰兒を我許に來らしめよ.)

Sint ut sunt, aut non sint.  
(外. 参.)

自分の受くべき報償を他の詰らぬ人が受けたのを嘆いたウィルザリウスの語句。受くべき人が受けずに他の人が受けるやうな場合に應用される語句。議會又は外交上に用ゐらるゝ語句。

タチトゥスが自分の時代より遠く懸絶した事蹟 歴史を書くつもりであるから、偏頗なく書くことが出来ると云ふことを言ひ表はした語句。歴史家の公平を形容する場合の應用語句。

ホラチウスの語句。並々の人、名なしの権兵衛と云ふやうな語句。

基督の門弟等が基督の許に人々が嬰兒を携來りたるを阻止したとき、‘嬰兒を容せ我に來るを禁しむる勿れ、天國に在る者は此の如き者なり’と曰はれたと云ふ基督の語句。

耶蘇會員リッチ師が同會の憲法を變更すべく提唱せられたときに答へた有名なる語句。一たび決定したことはどんなことあつても變更しないと云ふ場合の應用語句。

Si parva licet componere magnis. 蜜蜂の働きを一服入道のそれに  
(外. 参.) 比へたヴァルヂリウスの語句.  
Sistimus hic tandem nobis ルニャール一行がラボニア探  
ubi defuit orbis. (外. 参.) のとき、メタヴァラ山以外に  
進むことが出来なかつたので、  
同山に刻書したと云ふ語句.  
Sit tibi terra levis! (英. 参.) 墓碑に屢々銘刻される語句.  
Si vis me flere, dolendum ホラチウスの某戯曲作者に宛て  
est primum ipsi tibi. た語句。人を感動せしめやう  
(外. 参.) と思へば、先づ自ら感動しな  
ければならぬと云ふ場合の應  
用語句.  
Si vis pacem, para bellum. 他よりの攻撃を避ける最良の方  
(外. 参.) 法は自らを擁護し得る状態に  
置くに在ると云ふことを意味  
する語句.  
Sol lucet omnibus. (外. 参.) 天然の利福は人皆之を享有する  
権利あるを示す語句.  
Solve senescentem. (老馬の ホラチウスが凡て年老て隠退せ  
繋駕を解け) んとする人々、就中、文士に  
與へた訓言.  
Spiritus promptus est, caro 基督が橄欖山上に於て門弟等の  
autem infirma. (精神は逸 眠れるを見て、誘惑を避けん  
れども、肉體は弱し。) が爲には醒め且祈らなければ  
ならぬと訓告したときの語句.  
Spiritus ubi vult spirat. (靈 聖書〔ヨアネス〕の語句。靈感  
の風は望むがまゝに吹く。) (天啓)は人の意より起るもの  
ではない、天より來るもので  
あると云ふ意味。Spiritus flat

ubi vult (同義) とも云ふ。  
Stans pede in uno. (片足で立 ホラチウスがルチリウスの即坐  
つて。) に片足立ちして詩二百首を讀  
んだと云つたときの語句。即  
坐に、遽に、不意に、準備な  
しにの意味。  
Statu quo. (外. 参.) In statu quo ante (以前と同様の  
状態に於て)の意味。外交上  
屢々用ゐられる語句。例へば  
現状を維持するとか、又は戦  
前と同様の状態(statu quo an-  
te bellum) とか云ふが如し。  
Stultorum infinitus est numerus. サロモンの語句。  
(愚者の數は無數.)  
Stupete, gentes. (諸國民よ、 聖母の奉獻日〔潔めの日〕の爲  
驚けよ。) に近代詩人〔Santeul〕の作りた  
る聖歌の首めの語句。謙遜的  
に何か驚くべき事を示す場合  
の應用語句。  
Suave mari magno... (大海に ルチウスルチウスの詩句の首めの語に  
於て愉快...) て、詳しく記せば“大海に風  
浪の荒立つてあるとき、地上  
から、他の人の危険を眺めて  
ゐることに愉快である”。人  
の遭遇した危険を自分がのが  
れてよることであることを示  
す場合の應用語句。  
Sub Jove. (屋外に、野天に。) 青天井の下にの意味にて, sub  
(ユピテルの下にの意。) Dio〔神の下に〕〔ユピテルの

Sublata causa, tollitur effectus.

(英. 参.)

Sub lege libertas. (法律の下に於ける自由.)

Sub tegmine fagi. (山毛櫨の影に.)

Sufficit diei malitia sua.

(一日の苦勞は一日にて足れり.)

Sui generis. (英. 参.)

Summum jus, summa injuria.

(英. 参.)

Sunt lacrymæ rerum.

(英. 参.)

Super flumina Babylonis.

(バビロンの河畔に於て.)

下にと同義)とも云ふ。

“原因なければ結果なし”と云ふ哲學上の原理の自明的結論。

法律の制限及範圍内に於ける自由と云ふ意味。

ウィルギリウスの牧歌の首めの語句。

聖書の“明日の事を憂慮ふ勿れ明日は明日の事を思ひわづらへ、一日の苦勞は一日にて足れり”と云ふ句より出た語句。

例へば、或花が sui generis の香氣を有つてゐると云へば、他の花の香に比べられぬ一種特別の香氣を有つてゐるの意味。チチェロの引用した法律上の格言。餘り法を過酷に施行すると、屢々不義不正に陥ゐると云ふ意味。

エネアスがトロイヰ戰の光景を示す繪畫を見て其の忠實なる隨行者アカテスに語りたる語句。〔ウィルギリウス〕。不幸な人又は事柄を泣くの意に解するのは、實は誤である。

イスラエル人がバビロンに虜となれることに關するタヴィドの詩篇の語句。被追放者、俘虜等の運命を示す場合の應用

Supremum vale. (註解 æternum vale 條参照)

Surge et ambula. (起て歩め.)

Sursum corda. (外. 参.)

Sustine et abstinence. (外. 参.)

Sutor ne supra crepidam.

(外. 参.)

語句。

基督が中風症の者に語りたる語句。此の語句のみにて其病を癒したりと云ふ。

司祭が彌撒聖祭の夾に唱へる文句。人をして高崇な觀念を起さしむる場合の應用語句。

ストアイクス派の哲學上の金言。“汝の心を動かさずして凡ての苦痛禍害を忍べよ、汝の自由を妨ぐる凡ての快樂を控へよ”意。

希臘の畫家アルベレスの靴屋から自分の繪畫にかいてある靴の批評を受けたとき、その缺點は直にかき直したが、靴屋が尙進んで他の點を批評しやうとしたときに語つた語句。凡て己れの知識以外の事を知つたかふりして語らうとする者に對する應用語句。

## T

Tædium vitæ. (英. 参.)

Tædium vitæ は多く遊惰な生活を送り、何等の目的もなく暮してゐる結果である。

Tantæ molis erat. (外. 参.)

羅馬人が萬難を排して國を創立



Tant ne animis e lestibus  
iræ ! (外. 参.)

Tarde venientibus ossa. (遅れて  
来る者には骨.)

Telum imbelle sine ictu. (頼い  
矢, 立たぬ弱い矢.)

Tempora si fuerint. (註解  
Donec eris felix の條参照)

Tempus cdax rerum, (英. 参.)

Tenere lupum auribus. (狼の耳  
を捕へる.)

Testis unus, testis nullus. (一人  
の證人は證人なきにひとし.)

Timeo Danaos et dona ferentes.

したことを叙した ヴィルギリ  
ウスの語句。 企業の困難を  
示す場合の應用語句。

ユノのトロイア人に對する深き  
怨みを驚きたるヴィルギリ  
ウスの語句。

遅れて食卓に来る者には骨ば  
かりしか残つてゐないの意, 本  
來(固有)の意味にも, 喩の意味  
にも用ゐる, 後者の意味の場合  
には, 等閑又は忘却の爲に事を  
缺く者に應用される。

老プリアムスがヘルルスに向  
つて放つた矢を形容したヴィル  
ギリウスの語句。 力のない攻撃  
を指す場合の應用語句。

オヴィディウスの語句。 凡て  
の物を破壊する力ある時の経過  
を示した言葉。

困つた場合に際するの意味に  
解する者もあれども, 寧ろ困難  
に打ちかつの意味に解すべき語  
句。

唯だ一人の證人では法廷に於  
て事實の眞を立證するに足らぬ  
と云ふ法律上の語句。

ラコオンがトロイア人に希

(外. 参.)

Timeo hominem unius  
libri. (外. 参.)

Tolle, lege. (取て讀め.)

Tradidit mundum disputatio-  
nibus eorum. (世界を彼等の  
議論に任せた.)

Trahit sua quemque voluptas.  
(英. 参.)

Tu es ille vir. (外. 参.)

臘人の故意に遺棄し去りたる木  
馬を城中に入れることを制止し  
たときの語句。(ヴィルギリウス)。  
敵はいくら親切らしくても, い  
つも油断しないやうに警戒して  
なければならぬと云ふ場合の應  
用語句。

聖トマス, アクイナスの語句。  
一卷の書を精讀する人が畏る  
可き人であるの意。

聖者アグスチヌスが改宗前煩  
悶してゐた時, 林中に潜みて  
沈思默考してゐた所, 圖らず  
此の語を聞き, 其友の讀んで  
ゐた書に眼を放つた所が, 聖  
パウルの書翰に見當つたの  
で, 其爲め遂に改宗する事に  
決したと云ふ古事に基く。

神は世界を哲學者や, 科學者,  
政治家などの論議に委ねたと  
云ふ意味。

ヴィルギリウスの語句。 銘々其  
の道樂があつて, 自然とその  
方に引かされるの意。

ダヴィド王がウリアスを殺させ,  
其妻を奪つて罪を犯したとき,  
預言者ナタンが比喩を設け  
て, それとなく知らしめたと  
きの語句。

Tulit alter honores. (英. 参.) 註解 Sic vos non vobis の條參照. 同詩句の前にある半句にて、意味は Sic vos non vobis と同じ.

Tu Marcellus eris. (汝はマルチェルスたらん.) アウグストゥス帝の姉妹オクタヴィアの子にて、帝について位に即くべき者と定められたのに、十八歳にして夭折した爲め、ヴィルヂリウスは此の語句を以て空しき望を指したのである.

Tu queque, fili! (吾子よ、汝もか!) チェサールが、自分の子のやうに思はれてゐたブルトゥスの、自分の弑逆者の中に加つてゐたのを見て叫んだときの語句.

## U

Ubi bene, ibi patria. (外. 参.) 物質的快樂を愛國の衷情よりも重んずる人々の標語. チチエロの引用したパコヴィウスの詩句: Patria est ubicumque est bene (何處を問はず楽しくある所は即ち故郷である) を偲ばしむる語句.

Ubi solitudinem faciunt, pacem appellant. (外. 参.) タチトゥスがカレドニアの英傑ガルガクスの口を以て羅馬人の掠奪を非難せしめた語句. 其の劫掠をかざるに文明の口實を以てする征略家に應用さ

れる語句.

Ultima forsam. (恐くは最終.) 聖堂に屢々刻書せらるゝ語句. 見よ、恐くは汝の最終の時ならんの意.

Ultima ratio regum. (英. 参.) ルイ十四世が大砲に刻ませた標語.  
Una salus victis. (外. 参.) トロイ攻圍の際エネアスが戦友に最後 勇を鼓せんとしたときの語句. (ヴィルヂリウス). Una salus victis, nullam sperare salutem (敗者に取つて唯一の救済は、何等の救済をも期待せざること) と云ふ句より出た語句.

Unguibus et rostro. (外. 参.) 硬強に防禦するとか、殊死して戦ふなどの場合の應用語句.

Unum et idem. (外. 参.) 貧乏であると貪慾であるとは同一義と云ふやうな場合 應用語句.

Urbi et orbi. (外. 参.) 羅馬教皇が全世界に普及する祝福を降すときの語句. 世界到處と云ふ意味にて、他の事にも應用される語句.

Uli, non abuti. (外. 参.) 凡ての種類に思想に當嵌まる抑制の格言.

Uli possidetis. (外. 参.) 交戦者の現所領地に基準する條約を締結するなどの場合に於ける外交上の應用語句.

Ut pictura poesis. (外. 参.) ホラチウスの語句. 詩は畫の姉妹(兄弟)であると云ふやうな

Ut supra. (英. 参.)

意味に解するは誤解.

Vide supra (上記を見よ) と同義. 法律書類などに最も多く見ゆる語句.

V

Vade in pace. (外. 参.)

聽告白師 懺悔を聽く僧侶) が罪の赦を與へて告白者を立去らしむる時の語句.

Vade retro, Satana. (註解 Re'ro, Satana の條参照).

Vae soli! (外. 参.)

人々から離れて、孑々孤影を守つてある孤獨者、殊に人に見はなされてある孤立無援の人の憐れな境遇を形容した聖書の語句.

Vae victis. (外. 参.)

ゴールの將軍ブレンヌスが羅馬を攻圍したとき、羅馬人は金一千斤を出して、圍を撤して貰ふことにした、然るに其の金額を秤るとき、争が起り、羅馬人は勝者が不正の秤を用ゐることを非難した、其時同將軍は自分の重い劍を秤の中に投じて羅馬人に語つたときの語句. 敗者は勝者のまゝになるを示す場合の應用語句.

Vanitas vanitatum, et omnia vanitas. (外. 参.)

浮世の名譽利樂等凡て皆持むに足らぬことを語りたる聖書の

Varus, legiones redde. (ヴァー  
ルスよ、軍團を返せ.)

語句.

アウグストゥス帝が、其の將軍ヴァールスが戰敗れて三軍團を失ひたる時、非常に残念に思ひつゝ繰返したる語句. (スエトニウス).

Variorum. (英. 参.)

普通 Variorum (諸家の) の一字を以て略してある. Cum notis variorum scriptorum [諸家の作者の註釋附] を省略した語. Variorum nota (諸家の註釋) とし應用する場合もある.

Varium et mutabile semper....  
(英. 参.)

エネアスがカルタゴの女皇ディドの愛にひかされたとき、メルクリウス神がそれを引きはなさんが爲に、女に當嵌めたる語句. (ヴォルヂリウス). 女の心のいろいろに變り易きを示す場合の應用語句.

Velut aegri somnia. (病人の夢  
の如し.)

ホラチウスが首尾一貫せざる無系統の著書を病人の繼續なき夢に譬へたる語句.

Veniam petimus damusque  
vicissim. (吾等はお互に  
容恕を乞ふたり、與へたり  
する.)

ホラチウスが詩入に何でも試むる権利あることを語れる語句. 人々は相互に忍容し合ふべきことを示す場合の應用語句.

Veni, vidi, vici. (外. 参.)

チェサールがザラス附近に於てファルマチウス王を容易く打破りたるを元老院に報じたと

Vera incesso patuit dea.

(舉止によりて、眞の女神  
なることが知れた。)

Verba volant, scripta manent.

(英、参。)

Veritas odium parit (外、参。)

Victis honos. (英、参。)

Victrix causa diis placuit,  
sed victa Catoni,

Video lupum. (外、参。)

Video in liora proboque,  
deteriora sequor. (外、参。)

きの語句。凡て何事にても成  
功の易しく且速かなるを示す  
場合の應用語句。

エネアスに示現したヴェーヌス  
を形容したときの ヴィルギリ  
ウスの語句。

言論又は事實の物的證據書類を  
無暗に遺し置くものでないこ  
とを警告した羅句の諺。

テレンチウスの詩句。その前半  
は obsequium amicos (追従は  
友を(生む)) 句になつてゐる。

勝負事に於て勝つた者が負けた  
者を誘ふて尙更に復仇の舉に  
出でしむべく力づける語句。

チェサールに破られたポンペイ  
ウスに依然忠實に仕へてゐた  
カトに就て語つたルカヌスの  
詩句。敗れても、正義を把持  
して動かぬ人物を形容する場  
合の應用語句。

怖れてゐる人の噂をしてゐると  
き其人の遣つて來るのを見る  
ときの語句。佛蘭西で、“狼  
の話をする、其の尾が見え  
る”と云ふ俗諺に似てゐる語句。

オウィディウスの語句。正しい  
智識では、義務と徳とを行は  
ねばならぬを能く承知してゐ

Vir bonus, dicendi peritus.

(辯才の君子、口達者な善人。)

Vires acquirit eundo. (英、参。)

Virtus post nummos. (徳は金  
の二の次ぎ。)

Vis comica. (喜劇内の力、人  
を笑せはる力。)

Vitam impendere vero. (外、参。)

Vivere parvo. (外、参。)

Vive valeque. (外、参。)(英、  
参。)

Vivit sub ictore vulnus.

でも、意志の薄弱なると快樂  
を追ふ心との爲に、知らず識  
らず惡に流れると云ふ意味。

老カトが其子に對して、辯士に  
は徳と才の二つの權威を必要  
とすることを教へたときの辯  
士の定義。

ヴィルギリウスが“評判”と云  
ふ寓意的の神を形容した語句。  
ホラチウスが羅馬人の金言とし  
て提唱した語句。拜金主義を  
反語的に批判した語句。

チェサールのテレンチウスに關  
する碑銘から取つた語句。〔ス  
エトニウス〕。實際には、羅  
句の碑銘に於て、形容詞の  
Comica は、vis には附かずし  
て、他の語に附くものであら  
うと思はれる。

ユヴェナーリスの語句にて、ルー  
ソーはそれを己の標語とした。  
“vivere parvoを知る者は幸福な  
る者である。” “幸福はvivere  
parvo に存する”などの場合に  
應用される語句。

時々書簡の末尾に記される語句  
Vive et me ama (健在にて我  
を愛せ)とも云ふ。

ディドのエネアスに對する戀が

(傷(痕)が胸の底に生きてある。)

Vixit. (生きて了つた。)(死去した。)(外.参。)

Volenti non fit injuria. (同意者には不義にはならぬ。)

Vox clamantis in deserto. (外.参。)

Vox faucibus hæsit. (英.参。)

Vox populi, vox Dei. (英.参。)

消え失せずして再び燃へ起れることを叙したヴィルザリウスの語句。深い情の痕跡がいきいきとして遺つてゐるを示す場合の應用語句。

羅馬人が或人の死去を報じたときの語。

自分の同意した損害に就て口説く譯はないと云ふ意味の法律上の語句。

ヨアンネス洗者が猶太人から、夫子は救世主なるか、エリ阿斯なるか、豫言者なるかと問はれたときに答へた語句であるが、野に於て民衆に傳道してゐたことをも暗に示してゐる言葉である。道を説いても人に歡迎されず、野原に傳道してゐるやうなものであると云ふやうに解するのは誤解。

エネアスが異變の爲に驚いて口が利けなくなつたのを形容したヴィルザリウスの語句。驚愕の状を示す場合の應用語句。

民衆の輿論に據つて事實の眞又は事件の正しきを立證する場合の語句。

大正十四年 三月 五日 印  
大正十四年 三月 八日 發

刷  
行

不許複製



羅句語初歩獨修  
【定價金三圓八十錢】

著 作 者	前 田 越 嶺
發 行 者	土 戸 伊 三 郎 東京市神田區南神保町一六番地
印 刷 者	田 中 常 太 郎 東京市神田區表猿樂町二番地
發 行 所	尙 文 堂 東京市神田區南神保町一六番地 振替東京一九三四番
關西販賣所	三 宅 莊 藏 書 店 大阪市東區南本町四丁目 振替大阪六九番

【三誠社印刷所印刷】

慶大教授 前田越嶺氏著

### 佛語初步獨修

本書は如何なる初學者にも獨修し得る様々各語を施すに文章中の語句を直譯するより、日常單語等一切を收む。法重なる日常單語等一切を收む。

四六判美裝  
紙數約二百頁  
定價一圓  
送料書留十三錢

慶大教授 前田越嶺氏著

### 佛蘭西語獨修

著者多年の經驗と豊富なる蘊蓄と畢生の精力とを傾注してこの書を作成す。發音に文法に會話に選文に書簡より和文譯法に至るまで荷も佛語に關する知識は悉く收めてこの一巻にあり。

四六判布裝  
紙數五百數十頁  
定價金三圓  
送料書留十九錢

慶大教授 前田越嶺氏著

### 羅旬語初步獨修

我邦有數の羅旬學者前田越嶺氏が羅旬語の眞の發音法より文法會話選文等に至るまで初學者にも獨修し得せしめんとす。初學者にも獨修し得せしめんとす。初學者にも獨修し得せしめんとす。

四六判布裝  
紙數六百數十頁  
定價三圓八十錢  
送料書留十九錢

獨逸協會學校教頭 谷口秀太郎氏校閱 內山壽升氏著

### 獨逸語獨修

著者は多年獨逸に留學し専心語學を研鑽し如何にせば語學に熟達せしめ得べきかを苦心すること數年漸くこれを得た。本書に據れば如何なる初學者も些少の滯滞なく容易に獨逸語の堂奥に參入することを得べし。

三六判布裝  
紙數約三百頁  
定價一圓五十錢  
送料書留十三錢

323  
592

終